

日本耳鼻咽喉科学会 大阪府地方部会会報



目 次

一、卷頭言	1	二、役員会議事録	2	三、役員名簿・役割分担	10	四、規則	12	五、平成25年度会計報告	16	六、新入会員の紹介	18	七、補聴器相談医名簿	33	八、ENT FAX	41	九、製薬会社広告	58
-------	---	----------	---	-------------	----	------	----	--------------	----	-----------	----	------------	----	-----------	----	----------	----

卷頭言

日本耳鼻咽喉科学会大阪府地方部会長
竹中 洋

50年に一度の超大型台風と言われた今年の8号は、幸い大きな爪痕を残さず、近畿地方を通過しました。しかし、記録的な小雨や、限定的な豪雨、東京での6月の電等に代表される地球温暖化に伴う異常気象が徐々にその姿を見せようとしているようです。20年程前まで京都では祇園祭の宵山に、一天にわかれにかき曇り、雷鳴と大粒の夕立が梅雨の終わりとされていました。それから大文字までの1ヶ月間は正に酷暑の夏が続いたものです。子供達は小学校や中学校のプールに通い、真っ黒になっていましたが、熱中症なども少なくアイスキャンデーやソフトクリームが飛ぶ様に売っていました。いつの間にか「氷屋さん」が無くなり、ソフトクリームの看板が見られなくなっています。夏の風物詩が消えて行くのも単なる時代の流れではなく環境の変化もあるようです。

気象の変化だけでなく、一般に2025年問題とは超高齢社会の到来に伴う日本の医療や福祉の質的・量的变化を意味しています。我々団塊の世代が75歳になった時、日本から大阪府全体の人口約800万人が消えています。高齢化率は都市部でも30%を越えると予想され、認知症は北欧並みの8%程度になると予想されています。大阪医科大学では兵庫県や高知県と連携して地域医療支援を実施しています、今のへき地での問題は、明日の大阪府高槻市の課題であると考えています。2025年には団地に独居老人が点在し、介護は親子間でなく夫婦間や兄弟姉妹間で行うことになります。当然のこととして、「認知症高齢者の人権」や「超高齢者の医療を受ける権利」が大きな問題となっているでしょう。私が両親看取りに際して体験した「成年後見人制度」では、一般市民には医療を受けることについて不十分なところが残っています。

さて、10年後の耳鼻咽喉科診療はどう変わっているのでしょうか？学童検診後のラッシュアワーは既に過去になっていますが、高齢者の難聴やめまい感、嚥下機能障害に十分な診療展開がされているでしょうか？高齢者の中等度難聴について、補聴器は福祉と医療の間を彷徨っているのでしょうか？頭頸部腫瘍に対する低侵襲性手術や機能温存手術は確立しているでしょうか？処置科から検査科へ変貌できるでしょうか？確かなことは目の前の病人に選択される時代がそこまで来ていることです。暑中ご自愛下さい。

役員会議事録

平成25年度 第1回

平成25年5月25日 開催

出席者 34名

協議事項

1. 大阪府地方部会役員について
2. 平成24年度会計決算、平成25年度会計予算について資料のごとく決定した。(会計報告参照)
3. 本年度例会予定の確認と次年度の開催日、開催場所を確認した。

平成25年9月7日(土)、担当：大阪市大、会場：中之島センター

平成25年12月7日(土)、担当：阪大、会場：中之島センター

平成26年3月1日(土)、担当：近大、会場：中之島センター

平成26年6月7日(土)、担当：関西医大、会場：中之島センター

平成26年9月6日(土)、担当：大阪医大、会場：中之島センター

報告事項

1. 第325回例会プログラムについて、担当の大坂医科大学 河田教授より報告があった。
2. 医育機関代表者・都道府県地方部会長合同会議(H25.5.15)について報告がなされた。(竹中部会長)
3. 学会医会協議会：1.新法人移行について、2.保険医療委員会報告、3.専門医制度委員会から、4.第14回言語聴覚士国家試験の結果について、5.耳鼻咽喉科医療に関する全国調査について、6.嚥下障害診療に関わる歯科医師会との協議・連携について、7.寄付金について、8.その他(浅井副部会長)
4. 専門医制度：平成24年度の専門医試験結果の報告、平成25年度専門医試験の内容について報告があった。本年度の大阪府からの受験申込みは12名で

あり、現在専門医制度委員会にて資格審査中の旨の報告があった。(竹中部会長)

5. 平成25年度補聴器相談医資格更新講習会の開催予定(H25.6.29)について内容の報告が東川委員より報告された。
6. 平成25年度社療近畿ブロック会議の開催予定(H25.6.15)(津田委員)
7. 平成24年度会計決算が日耳鼻総会(5月15日)で認められたことを報告した。
(資料6の平成25年度予算書については、事業費の法人会計を0にするよう日耳鼻より依頼を受け修正したものを提出した)
8. その他の報告
 - 1) 日耳鼻保険医療委員会全国協議会の開催予定(H25.9.22、東海大学校友会館)を報告した。
 - 2) 下記の会の開催予定を報告した。
 - 第37回日耳鼻医事問題セミナー(H25.6.22-23:於 岡山市)
 - 第38回全国身体障害者福祉医療講習会(H25.6.8-9:於 浜松市)
(第18回補聴器キーパーソン全国会議を併催)
 - 第39回日耳鼻夏期講習会(H25.7.6-7:於 軽井沢)
 - 3) 平成24年度の補聴器相談医会計報告が東川委員より報告された。

平成25年度 第2回

平成25年9月7日 開催

出席者 36名

協議事項

1. 新役員の紹介
2. 例会について、下記の内容で準備を進めることになった。

平成25年12月7日(土)、担当：阪 大、会場：中之島センター
平成26年3月1日(土)、担当：近 大、会場：中之島センター
平成26年6月7日(土)、担当：関西医大、会場：中之島センター
平成26年9月6日(土)、担当：大阪医大、会場：中之島センター
平成26年12月6日(土)、担当：大阪市大、会場：中之島センター
3. 地方部会規則改訂について(資料)

地方部会規則等の改訂の為の委員会を作ることになった。委員の選任は会長、副部会長に一任し、12月7日の役員会で報告する事となった。
4. 第41回全国身体障害者福祉医療講習会 第21回補聴器キーパーソン全国会議主催について(愛場委員)

報告事項

1. 第326回例会のプログラムについて報告があった(山根教授)。
2. 日耳鼻専門医制度部からの報告(竹中会長)
 - 研修認可施設申請を地方部会長宛に行うように通知した(10月31日締め切り)
 - 平成25年度専門医試験を8月2-3日に終了した。合否の判定は9月の理事会後になされる予定である。
3. 日耳鼻保険医療委員会全国協議会について(H25.9.22、東京都)(津田委員長)

平成25年9月22日に東京都・霞ヶ関ビル東海大学校友館で開催されるが、内容については、次回の役員会で報告の予定である。
4. 鼻の日の事業報告(浅井副部会長)

医会で行った行事は下記のとおりで、これを日耳鼻へ報告することになった。

- 鼻の日セミナーを行った。
 - ポスター配布：会員および各病院に620枚を配布した。
5. 平成25年度社療近畿ブロック会議(H25.6.15)について(津田委員)
 6. 補聴器相談医講習会(H25.6.29)の報告(東川委員)
 7. 下記の会の報告が各担当の委員よりなされた。
 - 第39回全国身体障害者福祉医療講習会および第19回補聴器キーパーソン全国会議(H25.6.8-9：於 浜松市)(愛場委員、東川委員)
 - 第38回日耳鼻医事問題セミナー(H25.6.22-23：於 岡山市)(田中委員)

平成25年度 第3回

平成25年12月7日 開催

出席者 35名

協議事項

1. 次年度の例会について、下記の予定を確認した。

平成26年3月1日(土)、担当：近 大、会場：中之島センター

平成26年6月7日(土)、担当：関西医大、会場：中之島センター

平成26年9月6日(土)、担当：大阪医大、会場：中之島センター

平成26年12月6日(土)、担当：大阪市大、会場：中之島センター

平成27年3月7日(土)、担当：阪 大、会場：中之島センター

2. 平成25年度社会医療部全国会議(H26.1.25-26)への出席者を下記の通り決定した。

- ✓ 保険医療委員会ワークショップおよび全国会議(浅井、櫻原、津田)
- ✓ 産業環境保健委委員長会議(奥村新一)
- ✓ 福祉医療委員会全国会議(愛場、東川)
- ✓ 乳幼児医療担当推進役全国会議および委員会(佐野)
- ✓ 学校保健全国代表者会議および学校保健研修会(川喜、菊守)
- ✓ 医事問題委員会ワークショップおよび全国会議(田中、奥村隆司、川上)
- ✓ 認可研修施設指導責任者・専門医制度合同委員会(山根)

3. 地方部会規則等の改訂の為の委員会について(浅井副部会長)

4. 第41回全国身体障害者福祉医療委員会 第21回補聴器キーパーソン全国会議について(愛場委員)

5. 大阪府地方部会ホームページについて(資料)(竹中部会長)

6. その他

報告事項

1. 第327回例会のプログラムについて(北原委員)

動画演題が6題を含めて計57題があり、午前9時20分開始として終了を16

時24分とした。

2. 耳鼻咽喉科保険医療実態調査 (H25.10月分) の報告 (竹中部会長)
47/48件集計済み、11月末日地方部会へ
3. 日耳鼻保険医療委員会全国協議会 (H25.9.22、東京都) の報告 (津田委員長)
4. 研修施設認可届け出状況の報告 (H25.10.31締め切り) の報告 (竹中部会長)
新規3施設、更新25施設、辞退1施設の届出を行った。
5. 平成24・25年度第3回 学会・医会協議会 (H25.11.17) の報告 (浅井副部会長)
6. 地方部会長会議 (H25.11.17) の報告 (浅井副部会長)
平成25年度専門医認定試験の結果について、受験者258人、合格者が185人、合格率が71.7%であった。
7. その他

平成25年度 第4回

平成26年3月1日 開催

出席者 32名

協議事項

1. 本年度例会予定の確認と次年度の開催日、開催場所を決定した。
平成26年6月7日(土)、担当：関西医大、会場：中之島センター
平成26年9月6日(土)、担当：大阪医大、会場：中之島センター
平成26年12月6日(土)、担当：大阪市大、会場：中之島センター
平成27年3月7日(土)、担当：阪 大、会場：中之島センター
平成27年6月6日(土)、担当：近 大、会場：中之島センター
2. 平成26年度予算書について(資料1)
3. 大阪府地方部会規則、選出規定改訂について(資料2)

報告事項

1. 第328回例会プログラムについて
担当の近畿大学・土井教授より報告があった。
2. 社療全国会議(H26.1.25-26)の報告が括弧内の各委員によりなされた。
 - ✓ 社療部保険医療委員会ワークショップおよび全国会議(津田委員)
 - ✓ 産業・環境保健委員会委員長会議(奥村新一委員→岩井委員)
 - ✓ 福祉医療委員全国会議(愛場委員)
 - ✓ 福祉医療・乳幼児担当者全国会議(佐野委員)
 - ✓ 学校保健全国代表者会議ならびに学校保健研修会(菊守委員)
 - ✓ 地方部会医事問題委員会ワークショップおよび全国会議(田中委員)
 - ✓ 認可研修施設指導責任者・専門医制度委員会合同会議(山根委員)
3. 専門医制度部よりの報告

1) 平成26年度専門医認定試験について

本年度は平成26年8月1-2日に行われる予定で、受験申し込みを4月1-30日の間に地方部会事務局宛にすることを報告した。

2) 専門医認定の更新

平成25年度専門医認定は、移行措置によるもの51名（辞退3名）、試験によるもの127名（辞退1名）、計178名の書類を送付した（地方部会にH26.2.3締切り、日耳鼻事務局にH26.2.21締切り）。

4.「耳の日」の事業は、医会および大阪市大でなされた。内容は下記のとおりであった。

- ✓ 医会：番組出演（毎日放送ラジオ、NHKラジオ）、ポスター配付が行われた。
- ✓ 大阪市大：耳の日特別相談として、2月23日に補聴器および難聴相談会が開催された。

5. その他の報告

1) 保険医療調査について、48件の診療所からの調査結果を日耳鼻学会へ報告した。

2) 下記の会の開催予定を報告した。

- 第40回全国身体障害者福祉医療講習会および第20回補聴器キーパーソン全国会議（H26.6.21-22：於 大分県）
- 第39回日耳鼻医事問題セミナー（H26.6.14-15：於 京都市）
- 第12回日耳鼻嚙下障害講習会（H26.4.6：於 東京都）

3) 高島凱夫先生の参与申請について

日耳鼻大阪府地方部会役員名簿

(平成 26 年 6 月)

会長	竹中 洋				
副会長	浅井 英世				
参与 (17名)	綾仁 信夫 安藤 千里 石田 稔 植松 治雄 大迫 茂人 酒井 國男 高橋 宏明 富山 要二 中井 義明 長谷川 進 前川彦右衛門 牧本 一男 松永 喬 村田 清高 山下 敏夫 山本 悅生 渡部 泰夫				
代議員 (24名)	愛場 庸雅 浅井 英世 櫟原 茂之 猪原 秀典 岩井 大 萩野 敏 川上 理郎 川嶠 良明 河田 了 小西 一夫 坂本 平守 佐野 光仁 竹中 洋 田中 信三 津田 守 寺尾 恭一 土井 勝美 友田 幸一 中村 晶彦 中山 堯之 森崎 昇 山根 英雄 吉田 淳一 吉野 邦俊				
運営委員 (9名)	奥村 新一 奥村 隆司 菊守 寛 北尻 雅則 坂 哲郎 田中 耕一 東川 雅彦 堀井 新 李 吳哲				
監事	綾仁 信夫 大島 一郎				
幹事	小川 真 土井 直				

(50 音順・敬称略)
下線は新任を示す。

役割分担名簿

(平成 26 年 6 月)

学術	猪原 秀典 友田 幸一	荻野 敏 堀井 新	河田 了 山根 英雄	土井 勝美 吉野 邦俊
庶務・会計	○岩井 大	△ <u>小川 真</u>	坂 哲郎	森崎 昇
保険医療	浅井 英世 <u>小川 真</u>	櫻原 茂之 田中 信三	△川寄 良明 ○津田 守	北尻 雅則 堀井 新
産業環境保健	岩井 大	○奥村 新一	△土井 直	
福祉医療	○愛場 康雅	坂 哲郎	△東川 雅彦	
学校保健	川寄 良明	○菊守 寛	△中村 晶彦	
医事問題	△奥村 隆司	川上 理郎	○田中 耕一	
耳・鼻の日	浅井 英世	△友田 幸一	○山根 英雄	
救急問題	△川上 理郎	○田中 信三	堀井 新	吉田 淳一
専門医制度	△猪原 秀典 ○山根 英雄	河田 了	土井 勝美	友田 幸一
地域医療	○浅井 英世	櫻原 茂之	△中山 堯之	
乳幼児医療	△愛場 康雅	坂本 平守	○佐野 光仁	土井 勝美
編集委員	岩井 大 李 吾哲	○ <u>小川 真</u>	△小西 一夫	寺尾 恭一

(50 音順・敬称略) (○印: 委員長、△印: 副委員長)
下線は新任を示す。

昭和 50 年 4 月 1 日 作成
平成 8 年 6 月 8 日 改定
平成 16 年 6 月 5 日 改定
平成 26 年 6 月 7 日 改定

一般社団法人日本耳鼻咽喉科学会 大阪府地方部会規則

- 第1条 1. 本地方部会は一般社団法人日本耳鼻咽喉科学会定款第3条および定款細則第1章により設置し、大阪府地方部会と称する。
2. 本会は事務所を部会長が指定する大阪府内の施設内に置く。
- 第2条 本会は大阪府内において就業または居住する一般社団法人日本耳鼻咽喉科学会会員をもって組織する。
- 第3条 本会は、一般社団法人日本耳鼻咽喉科学会の目的を達成するための事業を行うとともに大阪府における耳鼻咽喉科学の発展と耳鼻咽喉科診療の充実並びに会員相互の親睦を計ることを目的とする。
- 第4条 会員は所定の会費を支払わなければならない。
- 第5条 本会の会員になろうとするものは、会費を添えて入会申込書を提出しなければならない。
- 第6条 会員が住所氏名を変更した時は、速やかに、本会へ届け出なければならない。
- 第7条 会員は本会が行う講演会および研究会に参加することができる。
- 第8条 会員が本会を退会しようとする時は理由を附して退会届を提出し、部会長の承認を経なければならない。
- 第9条 1. 本会に、次の役員を置く。
- | | | | |
|------|-----|------|----|
| 部会長 | 1名 | 副部会長 | 1名 |
| 運営委員 | 若干名 | 監事 | 2名 |
2. 本会に、顧問ならびに幹事を若干名置くことができる。
- 第10条 役員は別に定める方法により選出する。
- 第11条 顧問ならびに幹事は役員会で推挙する。

第12条 部会長は、本会を代表し、会務を総理する。

第13条 副部会長は部会長を補佐し、部会長が欠けた時又は事故がある場合において役員会が必要と認めた時は副部会長が部会長の職務を代行する。

第14条 監事は会務の執行状況および本会会計の監査を行う。

第15条 1. 役員並びに顧問、幹事の任期は2年とする。
2. 任期が満了しても、後任者が選任されるまでは、その職務を行わなければならない。

第16条 1. 役員に欠員が生じた時は、速やかに補充しなければならない。

2. 補充した役員の任期は、前任者の残任期間とする。

第17条 1. 本会の事務を処理するために、職員を置くことができる。

2. 職員は有給とする。

第18条 定時総会は年1回、また必要ある場合には臨時総会を役員会の承認を経て、部会長はこれを招集し、部会長は、その議長となる。

第19条 総会の承認および決議は、出席者の多数決による。可否同数の場合は議長がこれを決める。ただし書面による議決権の行使を認めない。

第20条 総会の議事の要項および議決した事項は、会員に通知する。

第21条 1. 役員会は、部会長が招集し、その議長となる。
2. 役員会は本会役員、一般社団法人日本耳鼻咽喉科学会役員、代議員および参与により構成される。
3. 顧問ならびに幹事は役員会に出席し意見を述べることができる。

第22条 本会の目的を達成するため、次の委員会を設ける。

- 1) 学術委員会
- 2) 庶務・会計委員会
- 3) 保険医療委員会
- 4) 産業環境保健委員会
- 5) 福祉医療委員会
- 6) 学校保健委員会
- 7) 医事問題委員会
- 8) 耳・鼻の日委員会
- 9) 救急問題委員会
- 10) 専門医制度委員会
- 11) 地域医療委員会
- 12) その他部会長が必要と認める委員会

第23条 本会の経費は、会費、および寄付金、その他の収入を以て充てる。

第24条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第25条 本会は他の地方部会と連合で講演会を開催することができる。

第26条 他の地方部会に所属する一般社団法人日本耳鼻咽喉科学会会員は、
本会が行う講演会および研究会に参加することができる。

第27条 一般社団法人日本耳鼻咽喉科学会代議員はその定めるところに基づ
いて選出する。

第28条 年会費は平成16年度より4,000円とする。

附 則

この規則の改定は役員会で審議し承認した後、会員に報告する。

一般社団法人日本耳鼻咽喉科学会大阪府地方部会役員選出規定

第1条 部会長、監事は選挙管理委員会が別に定める選挙規定に準じて立候
補者より選出される。

第2条 副部会長は部会長が指名する。
運営委員は部会長が推薦する。

第3条 部会長、監事の選出に当たって、選挙管理委員会を置き、一般社団法
人日本耳鼻咽喉科学会代議員選挙規則および同細則に準じ、選挙日
は代議員選挙日と同日に行う。

第4条 役員は可及的速やかに本会総会（定時あるいは臨時）において報告す
る。

第5条 地方部会役員の被選出者は、本地方部会の会員に限る。

一般社団法人日本耳鼻咽喉科学会
大阪府地方部会代議員選出規定

- 第1条 代議員は、一般社団法人日本耳鼻咽喉科学会代議員選挙規則および同細則の定めるところに基づいて選出する。
- 第2条 代議員選挙は、2年に1度、2月に実施することとし、任期は4月1日から2年間とする。
- 第3条 代議員の補欠選挙は、一般社団法人日本耳鼻咽喉科学会代議員選挙規則および同細則の定めるところに基づいて選出する。
- 第4条 代議員の被選出者は、一般社団法人日本耳鼻咽喉科学会正会員であつて本地方部会の会員に限る。

平成 25 年度 大阪府地方部会会計

自 平成 25 年 4 月 1 日 至 平成 26 年 3 月 31 日

			予算	決算	増減
収入の部					
会費	年会費	平成 25 年度	3,496,000	3,460,000	△ 36,000
	過年度会費		192,000	116,000	△ 76,000
	次年度会費		28,000	100,000	72,000
	平成 25 年度奈良県		140,000	142,000	2,000
	平成 25 年和歌山県		45,000	49,000	4,000
地方部会誌広告代			600,000	550,000	△ 50,000
専門医地方部会連絡費・委託費	専門医	日耳鼻	179,000	195,000	16,000
預金利子			700	745	45
前年度繰越金			5,110,382	5,110,382	0
補聴器相談医更新料			48,000	63,000	15,000
雑収入			50,000	51,402	1,402
計			9,889,082	9,837,529	△ 51,553
支出の部					
地方会 (325回～328回)	会場費	中之島	262,400	196,800	△ 65,600
	例会案内ハガキ		250,600	222,000	△ 28,600
	プログラム		580,000	511,614	△ 68,386
	人件費		80,000	80,000	0
	お茶代		15,000	12,484	△ 2,516
役員会	会議費	会議室	64,000	48,000	△ 16,000
		お弁当代	200,000	191,340	△ 8,660
会誌	印刷代		550,000	524,700	△ 25,300
	郵送料		80,000	68,894	△ 11,106
	封筒		20,000	0	△ 20,000
役員改選			100,000	94,000	△ 6,000
事務費	通信費		150,000	155,222	5,222
	印刷代		100,000	58,800	△ 41,200
	文具、その他		80,000	81,264	1,264
	会費振込手数料		76,000	62,560	△ 13,440
	吹田商工会議所		110,000	82,140	△ 27,860
	中村会計事務所		21,000	21,000	0
	振込手数料		9,000	7,500	△ 1,500
	旅費交通費		150,000	146,040	△ 3,960
国際耳鼻咽喉科学振興会への寄付	国際耳鼻咽喉科学振興会	賛助費	20,000	20,000	0
書記手当			2,000,000	2,239,384	239,384
福利厚生費(社会保険、所得税)			330,000	331,971	1,971
出張費			150,000	0	△ 150,000
資格に関する諸経費	補聴器相談医	通信費、紙管	10,000	5,500	△ 4,500
委託費(補聴器相談医)			16,000	21,000	5,000
HP維持費			-	-	-
手許金からの支払い(通信費、消耗品、旅費交通費)			-	5,656	5,656
予備費			100,000	69,725	△ 30,275
消費税相当			-	-	-
計			5,524,000	5,257,594	△ 266,406
次年度繰越金			4,365,082	4,579,935	214,853

日耳鼻専門医制度委員会会計

自 平成 25 年 4 月 1 日 至 平成 26 年 3 月 31 日

――収入の部――

専門医地方部会連絡委託費平成 22 年度

専門医認定者（認定更新による）	75名	88,000
（試験による）	14名	7,000
一律		100,000
計		195,000

――支出の部――

大阪府地方部会会計へ入金 195,000

計 195,000

差引残高 0

平成26年度 日耳鼻大阪府地方部会 新入会員の紹介

●【正会員】

吉 田 恵 (Yoshida Megumi)	大阪医科大学	19
後 藤 孝 和 (Goto Takakazu)	大阪市立大学	20
大 西 恵 子 (Ohnishi Keiko)	大阪大学	21
添 田 岳 宏 (Soeda Takehiro)	関西医科大学	22
高 田 真紗美 (Takada Masami)	関西医科大学	23
横 山 彩 佳 (Yokoyama Ayaka)	関西医科大学	24
白 石 功 (Shiraishi Koh)	近畿大学	25
山 村 裕 真 (Yamamura Yujin)	国立病院機構 大阪医療センター	26
北 村 江 理 (Kitamura Eri)	大阪警察病院	27
森 実 夏 衣 (Morizane Natsue)	大阪府立・急性期総合医療センター	28
野 澤 真 祐 (Nozawa Masayuki)	市立池田病院	29
小 幡 翔 (Obata Sho)	住友病院	30
野 村 直 孝 (Nomura Naotaka)	りんくう総合医療センター	31
中 谷 彩 香 (Nakatani Ayaka)	JCHO大阪病院	32



姓 名 吉田 恵 (Yoshida Megumi)

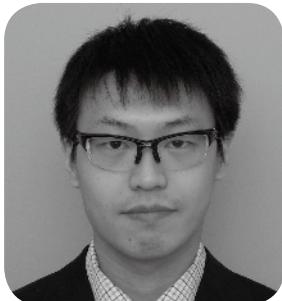
卒業年度 平成 23 年

出身校 兵庫医科大学

出身地 兵庫県

勤務先 大阪医科大学

今年度、大阪医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科医局に入局させていただきました、吉田恵と申します。出身大学でもなく、大阪医大に知り合いが多いわけでもなく、地元というわけでもなく、なぜ大阪医大に入局したのかよく聞かれます。そんな私を快く迎えてくださった大阪医大の方々に感謝しております。出身高校は白陵高等学校、出身大学は兵庫医科大学です。高校では陸上部、大学ではゴルフ部に所属していました。幼稚園から陸上をしていたため、今でも急に走りたい衝動に駆られる事があります。趣味は温泉めぐりとやはりゴルフと、50歳台のような休日を満喫しています。部活をしていた割にはゴルフのスコアは芳しくありませんが、毎回楽しくラウンドしております。耳鼻咽喉科を目指したきっかけは、学生時代に母校の耳鼻咽喉科を回らせていただいた際に、診断から治療まで自分の科で行うことができる、最後まで自分の患者さんと向き合えると思ったからです。また嗅覚・聴力・味覚といった、生きていくうえでなくてはならない感覚に携わっていくことができるのがとても魅力的であると思いました。外科的治療に携わることで、より内科疾患の理解を深めることができると先輩に教えていただいた事もあり、日々そういう目で手術に入らせていただいております。とは言え、範囲も広く圧倒されている部分もあります。様々な学会・勉強会に参加して知識を広げたいと思い、ここ2,3年の目標は英検3級レベルの英語を改善しようと思っております。本年度の入局者は私1名と、少し心細い面もありますが、先生方に支えられ楽しく仕事をさせていただいております。耳鼻咽喉科歴は数ヶ月と浅く、真面目にしている割には少々どじな性格もあり、様々なご迷惑をおかけすると思いますが、今後ともご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。またこういった自己紹介の機会を与えてくださってありがとうございました。



姓 名 後 藤 孝 和 (Goto Takakazu)

卒業年度 平成 22 年

出身校 和歌山県立医科大学

出身地 大阪府

勤務先 大阪市立大学

はじめまして、この度大阪市立大学耳鼻咽喉科に入局させていただきました、後藤孝和と申します。和歌山県立医科大学卒業後、国立大阪南医療センターで2年間、初期臨床研修をさせていただきました。

研修先では、広い視点が必要と考え内科全般を含め様々な診療科をローテート致しました。ローテートしていくに従い、それぞれの診療科にそれぞれの良さがあり、自分の進むべき道に迷いが生じました。しかしながら曾祖父、祖父、父の耳咽喉科医としての後ろ姿を小さいころから見ており、姉も先に耳鼻咽喉科医となったこともあり、絶余曲折もありましたが、自分もやはりその道に進んでいきたいと思うようになりました。

入局以来はや2ヶ月が経ちましたが、臨床研修では耳鼻咽喉科が無かった為、すべてがまだまだ新しく、また興味深い日々を過ごさせていただいております。しかしながらそれと一緒に多く勉強、経験しなければならないと痛感している毎日であります。まだまだ至らないことが多く、皆様にはご迷惑ばかりおかけしていると思いますが、日々精進するよう努めていく次第であります。何卒御指導、御鞭撻の程よろしくお願ひ致します。



姓 名 大 西 恵 子 (Ohnishi Keiko)

卒業年度 平成 23 年

出身校 福岡大学

出身地 京都府

勤務先 大阪大学

今年度より大阪大学医学部附属病院で勤務しております、大西恵子と申します。平成 23 年に福岡大学を卒業し、大阪府立急性期・総合医療センター、大阪大学医学部附属病院で 2 年間初期研修を行いました。

医学部 4 年生時までは、紙面上での耳鼻咽喉科という教科の勉強に対してむしろ「難しい、イメージが沸かない、物理っぽい」と考えておりました。しかし、5 年生時に BSL で耳鼻咽喉科を回った時に、色々な患者さんの検査や手術、処置を見たのをきっかけに、何となく楽しい科だったな、という印象に変わりました。町の耳鼻科とは全く違うイメージで、頸部の生々しい手術から顕微鏡下の細かい手術まであるということも知りました。内科から外科まで、色々なことができる科だということも知りました。

その後も色々な科に興味を持ちましたが、最終的には自分にとって、楽しい、子供ができるでも働ける、手術ができる、ことを全て満たしてくれる耳鼻咽喉科に進もうと決めました。また、いくつかの病院で耳鼻科を見学しましたが、どこの病院も良い雰囲気だなと感じました。こんな人たちが集まっている科だったら楽しいだろうなと思いました。

4 月になり耳鼻咽喉科・頭頸部外科と書いた名札を頂き、かっこい～！と思いつながら働いています。まだまだ出来ることも、理解できていることも、知識も浅く、先生方にはご迷惑をかけておりますが、優しく、時に厳しく指導して下さる先生方に囲まれて仕事が出来ることに喜びを感じています。

また、多種多様な病気を持っていた患者さんが元気になっていく様子を、身近で治療しながら見られることも、楽しみの一つです。

これから一人前の耳鼻咽喉科医となるに向けて、まだまだたくさんの困難があるとは思いますが、一歩ずつ進んでいきます。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。



姓 名 添 田 岳 宏 (Soeda Takehiro)

卒業年度 平成23年

出身校 関西医科大学

出身地 京都府

勤務先 関西医科大学

今年度から関西医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科に入局させて頂きました添田岳宏と申します。出身地は京都府で、高校は私立洛南高等学校です。

関西医科大学を卒業し、初期研修の2年間を大阪府済生会野江病院で過ごさせて頂きました。初期研修で各科をローテートする際に自分の志望科について悩み続けましたが、耳鼻科で研修して「これだ！」と決めた時は心が晴れるような想いでした。

この4月から当科で勉強させて頂き、各器官特有の機能と専門性を知れば知る程、その幅広く膨大な知識の量に押し潰されそうになります。それでも諸先生方の優しさと熱心な教育を受け、メリハリのある恵まれた環境で学ばさせて頂いていることに日々感謝しています。

趣味は大学時代に部活としていた硬式テニスです。大学卒業後も時間を見つければ、できるだけ技術が落ちないようにしています。テニスをする機会がありましたら是非声を掛け下さい。



姓　名　高　田　真紗美 (Takada Masami)

卒業年度 平成 23 年

出身校 関西医科大学

出身地 大阪府

勤務先 関西医科大学

平成 26 年度関西医科大学耳鼻咽喉科に入局させていただきました高田真紗美と申します。

出身地は大阪府池田市で、平成 23 年度に関西医科大学を卒業しました。大学時代は硬式テニス部に所属し真っ黒に日焼けしながら学生時代を過ごしました。

初期研修は大阪市大正区にある済生会泉尾病院で研修を修了いたしました。泉尾病院は、急性期病床数が 300 床と規模はあまり大きくはありませんが、地域に根ざした病院で、いわゆる common disease でかかる方が多くおられました。内科や外科全般の必須科目を研修した後は、自分が勉強したい科目を選択するという自由度の高いプログラムでしたので、その際に耳鼻咽喉科で研修したことがきっかけとなり、この度入局を決めました。

私は当初は志望科を決めておらず、初期研修が始まってから興味を持った科にしようと思っていました。最終的には呼吸器内科や皮膚科とも迷いましたが、耳鼻咽喉科は専門性が高く、自ら手を動かす処置や手術もでき、また内科系の疾患も見ることができるという点が魅力だと感じ専門科に決めました。さらに関西医科大学は母校であるとともに、医局の先生方が親切に指導してくださり、仕事においてオンオフの切り替えを上手にされている姿に惹かれ入局させていただくことを決心しました。

これからは、積極的に一つでも多くのことを学び、身につけていきたいと思っております。

まだまだ未熟で至らない点も多くご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、ご指導ご鞭撻の程何卒よろしくお願ひいたします。



姓 名 横山 彩佳 (Yokoyama Ayaka)

卒業年度 平成24年

出身校 近畿大学

出身地 岡山県

勤務先 関西医科大学

今年4月から関西医科大学枚方病院の耳鼻咽喉科に入局させていただきました横山と申します。

出身は岡山県で、大学入学を機に大阪へ来ることとなりました。近畿大学を平成23年度に卒業後、京都府の医仁会武田総合病院で初期研修をしました。

大学では、バドミントン部に入り愉快な仲間達にも恵まれて楽しい日々を過ごしました。4年生の時に沖縄県で開催された西医体で、試合よりも大会後の沖縄観光に情熱を燃やしたのは、いい思い出です。

出身大学ではない耳鼻科に入局することに迷いを感じた時期もありましたが、様々な症例があり、それぞれの分野でご活躍されている先生方が多くおられる環境で働きたいと考えました。せっかくの環境を活かして多くの経験を積み重ねていきたいと思っています。

今後、ご迷惑を多々おかけすると思いますが、ご指導のほどよろしくお願ひいたします。



姓 名 白 石 功 (Shiraishi Koh)

卒業年度 平成 23 年

出身校 近畿大学

出身地 大阪府

勤務先 近畿大学

この度、近畿大学医学部附属病院耳鼻咽喉科に入局させていただいた白石功と申します。学生の頃から土井教授に可愛がって頂き、留年や国試浪人という人生の回り道をした自分ではありましたが、「待ってるから」といつも温かい言葉をかけていただきました。前期臨床研修病院を選択する時には「近大で研修をしなさい」というお誘いにも丁寧にお断りをさせて頂き、必ず2年で帰ってきますと約束をしNTT西日本大阪病院を紹介していただきました。そこで出会ったのが当時NTT西日本大阪病院耳鼻咽喉科部長（現在関西労災病院耳鼻咽喉科部長）である赤埴先生でした。研修医2年目の半分以上を耳鼻科で研修させて頂き、結紮の仕方やクーパーの持ち方まで部長クラスの先生には申し訳ないくらいの基礎から教えていただきました。扁桃摘出術やESS、リンパ節摘出術など執刀医をさせていただき何かあればなんとかしたると背中にいつも頼もしさを感じていたのを覚えています。医者のるべき姿、また上である人間のあるべき姿など自分の中で理想像であり、目指すべき姿を学ばせていただきました。同病院で在籍されていた先生方も耳鼻科医として必要な知識・手技を厳しくも優しく教えていただきました。

2年間の研修を終え、この春より近畿大学耳鼻咽喉科に入局し、耳鼻科医として新たな一步を踏み出しました。入局者が1人であることから忙しい日々ではありますが、外来での診察、手術においての執刀医など4月の1週目から与えていただき、今までにはなかった緊張感とやりがいの中走り続けています。まだまだ、耳鼻科医というには恥ずかしい知識・技術・人間性でありますが、ここまで支えていただいた先生方または現在お世話になっている先生方に少しほは耳鼻科医になったと言っていただけるように頑張っていきたいと思います。

諸先生方にはご迷惑をおかけすることと思いますが、今後もご指導ご鞭撻の程よろしくお願ひします。



姓 名 山 村 裕 真 (Yamamura Yujin)

卒業年度 平成24年

出身校 大阪大学

出身地 兵庫県

勤務先 大阪医療センター

山村裕真(やまむら ゆうじん)と申します。本年より国立病院機構大阪医療センターにて耳鼻咽喉科医として勤務致しております。入会にあたり僭越ながら自己紹介させて頂きます。

幼少期は大阪で過ごしましたが、帝塚山学院小学校を卒業し灘中学校に入学して以降は、西宮市民となりました。中学高校ではテニス部に所属していました。先生や同級生に恵まれ、団体戦で全国3位になるという幸運もあるなど、充実したテニスライフを送っておりました。現在でも休日には同じ病院や他院の友人らとテニスをすることが多く、気分転換・体力維持に楽しんでおります。

2006年に大阪大学に入学しました。在学中は学業については無難に過ごし、もっぱらゴルフ部の活動に勤しんでおりました。西医体には3回生の時から4回出場し、西日本各地の良いゴルフ場でラウンド出来たのが良い思い出です。医師として働き始めてからは練習もしにくくなり、たまにラウンドすると良い結果は出ず、貴重な休日を楽しいものにするためにも、趣味の座はすっかりテニスに奪われております。

2012年に大学を卒業後、初期研修医として現在の病院で働き始めました。当初は内科系を考えていましたが、老若男女を診ることができ、症状を劇的に改善させることが出来る耳鼻咽喉科の魅力に触れ、専攻することに決めました。科長の堀井先生のご高配もあり、また手術の難易度も様々のため、まさに駆け出しの私に対しても積極的に手術症例を割り当てて頂いており、日々非常に勉強させて頂いていると感じると同時に、これからも精進していくかなければ感じている所です。

以上で、簡単ではございますが自己紹介とさせて頂きます。今後共ご指導ご鞭撻の程、何卒よろしくお願ひ申し上げます。



姓 名 北 村 江 理 (Kitamura Eri)

卒業年度 平成 24 年

出身校 兵庫医科大学

出身地 兵庫県

勤務先 大阪警察病院

平成 26 年度に入局しました北村江理と申します。私は市立池田病院で 2 年間の初期臨床研修を終えた後、初期臨床研修中に耳鼻咽喉科に興味を持ち、当時ご指導いただいた先生方のすすめもあって大阪大学の医局に入局させていただきました。後期研修一年目の 4 月からは大阪警察病院に勤務しております。

もともと私の父が眼科医であることもあって、眼科に進むことになるだろうと思っていたが、初期臨床研修の市立池田病院で、当直の際に専攻医の先生にお声をかけていただき、耳鼻咽喉科での研修を何気なく選択しました。しかし、実際研修させていただいて、耳鼻咽喉科が専門性が高く、耳・鼻・頭頸部と疾患が多様であること、外来も問診・診察だけでなく、さまざまな処置を必要とすること、そして若手でも術者になれる手術があることなどを知って耳鼻咽喉科医になることを決めました。

耳鼻咽喉科の楽しさを教えていただき、熱心にご指導してくださった先生方にはとても感謝しています。

4 月から新しい病院で、初めて外来をもつこと、手術の執刀をさせていただくことに不安でいっぱいでしたが、上級医の先生からご教授いただき、バックアップもしっかりとしているため毎日新しいことを学びながら勤務させていただいています。

また、大阪警察病院では様々な専門を持った上級医の先生がいらっしゃるため恵まれた環境の中で勤務できることは本当に幸せなことだと思っています。

若くても何でも診れる上級医の先生方のように早くなれるように頑張っていきますので、ご指導、ご鞭撻の程よろしくお願ひいたします。



姓 名 森 実 夏 衣 (Morizane Natsue)

卒業年度 平成 24 年

出身校 岡山大学

出身地 大阪府

勤務先 大阪府立急性期・総合医療センター

平成 26 年 4 月より、大阪大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科に入局させていただきました森実夏衣と申します。平成 24 年に岡山大学を卒業し、その後地元の大阪に戻り、大阪府立急性期・総合医療センターにて 2 年間初期研修を行いました。

私は初期研修医になるまでは、耳鼻科ではない科を志望していましたが、耳鼻科ローテートを通して、一人でできる小さな手術、処置から、チームで行う頭頸部の大きな手術まで、非常に多くの手術ができる耳鼻科に魅力を感じました。また、咽喉頭炎、副鼻腔炎、アレルギーなどの内科的疾患があったり、腫瘍患者における全身管理などの内科的な面もあることから、将来的に選択の幅が広いことにも魅力を感じ、耳鼻科医になることを決めました。その後、レジデントとして当院に残ることができましたが、今は扁桃摘出術、ラリンゴ手術、気管切開術などの執刀や病棟管理を中心に学ばせていただいている。日々勉強不足だと感じる一方で、熱心に指導してくださる先生方のおかげで、できることが少しづつ増えていき、非常に充実した毎日を送っています。

私は大学ではゴルフ部に所属し、6 年間練習に励んでいました。医師になってからは、なかなか練習をする機会はなく、下手になっていく一方ですが、病院の先生方とゴルフをご一緒させていただくことも多々あり、ゴルフを通じて親交を深めることができました。今後もゴルフを通じて、たくさんの先生方と交流していくべきだと思っています。

最後になりましたが、まだまだ至らない点が多くあるため、先生方にはたくさんご迷惑をおかけするとは思いますが、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



姓 名 野 澤 真 祐 (Nozawa Masayuki)

卒業年度 平成 24 年

出身校 岡山大学

出身地 大阪府

勤務先 市立池田病院

この度大阪大学医学部耳鼻咽喉科・頭頸部外科教室に入局させて頂きました、野澤 真祐です。

平成 24 年に岡山大学医学部を卒業した後、兵庫県姫路市にある姫路日赤病院で初期研修を修了し、平成 26 年 4 月から市立池田病院で耳鼻咽喉科医としての後期研修をスタートしております。

生まれは大阪府茨木市で、小学校の低学年からは兵庫県三田市に引っ越しして田舎のんびりした生活を送っていました。小学校中学校ではサッカー日本代表の岡崎慎司と同じクラスだったこともあり、彼の絶技を間近で見ることができました。

中学校から始めたテニスが思いのほか楽しく、勉強する間を惜しんで練習に励んでいました。兵庫県でそれなりの成績を残し、腕にもそれなりの自信があったので、大学に入ればすぐさまレギュラーになり薔薇色の学生生活が待っていると信じて、浪人生活を 1 年過ごした後、岡山大学に入学しました。

入部した硬式テニス部にはインカレ選手の先輩を始め実力者揃いで、同期も全員同じような成績を残してきたツワモノばかりでした。妄想していたような薔薇色の学生生活とは違い、西医体優勝を目指してテニス漬けのストイックな学生生活を送りました。その様な恵まれた環境の中でレギュラーとして部に貢献でき、成績としては準優勝止まりでしたが悔いのない結果を残すことが出来たと思います。

医者を目指し、耳鼻咽喉科を選んだ理由は父の影響が大きいと思います。中学生の時、ゲームクリエイターになりたいと言った時に父が止めてくれなければ、今頃全く違う道に進んでいたと思います。父は開業しておりますが、継ぐことよりも自分の進みたい道を選べば良いと、常々言ってくれています。本心かどうかは分かりませんが、胸を張って医院を潰しても進ませてくれ、と言えるような道を見つけることが今の一番の目標です。

まだまだ未熟者で至る所でご迷惑をおかけしておりますが、早く諸先生方の期待に応えられるよう、努力を続けたいと思います。また、直接ご挨拶に伺えていない先生方も沢山おられると思いますが、何卒宜しくお願い申し上げます。

以上、乱文乱筆失礼致しました。



姓 名 小 幡 翔 (Obata Sho)

卒業年度 平成23年

出身校 神戸大学

出身地 鹿児島県

勤務先 住友病院

この度、大阪大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科に入局いたしました小幡翔と申します。平成24年3月に神戸大学を卒業し、同年4月から大阪市北区の住友病院で初期研修を終えたのち、平成26年4月から同病院の耳鼻咽喉科・頭頸部外科の専攻医として勤務しております。

私は鹿児島の修学館高等学校を卒業し、北球予備校で2年間の浪人生活の後、神戸大学に入学いたしました。直営の寮で過ごした予備校生活でした。北九州予備校は予備校ながら厳しい校風で知られ、無事大学合格を果たすと『脱北おめでとう』と祝われるという不思議な環境です。そうして、晴れやかな気持ちのまま大学6年間を学友たち、そして軽音楽部の愉快な仲間たちと共に過ごし、歌とギターと音楽にどっぷりと漬かった大学生活を過ごしました。

耳鼻咽喉科教室の研究医を経て開業医になった父の影響もあり、大学入学当初から漠然と耳鼻咽喉科を志望しておりましたが、入学1年目の見学実習を経た頃にははっきりと耳鼻咽喉科を志望するようになっておりました。手技や手術の豊富さ、繊細さもさることながら、患者のQOLに関わる感覚器や機能を専門領域とする耳鼻科に魅力を感じたためです。耳鼻咽喉科の領域でも頭頸部腫瘍の領域に興味を抱いていた私は、諸先輩の勧めもあり住友病院での初期研修をさせていただく運びとなりました。住友病院は本当に素敵な病院で、医局内の風通しは良く、コメディカルとの関係性も良い病院です。総合診療的な診察法、診断学、多種多様な内科疾患、感染症診療とその対策、コメディカルとの連携の在り方など、耳鼻咽喉科以外の領域で、これから医師人生においても宝となることを沢山学ばせていただきました。

耳鼻咽喉科として働くようになり1ヶ月半が過ぎましたが、指導医の先生方やコメディカルのスタッフに助けられながら耳鼻咽喉科の専門性に感嘆し、己の力不足と戦う日々を過ごしています。今は、右往左往する日々の中で、一つ一つの気づきがとても興味深く感じられ、その中で得られる事を貪欲に学んでいきたく思っております。

この度はこのような自己紹介の機会をいただき有難うございました。これから耳鼻咽喉科医としての生活の中で、諸先生方にはお世話になることもあると思いますが、御指導、御鞭撻のほど、宜しくお願い申し上げます。



姓 名 野 村 直 孝 (Nomura Naotaka)

卒業年度 平成 23 年

出身校 和歌山県立医科大学

出身地 大阪府

勤務先 りんくう総合医療センター

日本耳鼻科学会の諸先生方、はじめまして、H23年 和歌山県立医科大学卒業の野村 直孝と申します。この度は、日本耳鼻科学会に入会させて頂き、誠にありがとうございます。僭越ながら、自己紹介をさせて頂きます。

私は、2年間の初期臨床研修を終え、現在、この4月より、独立行政法人りんくう総合医療センターにて、耳鼻科医として後期研修を開始させて頂いております。

私は、大学時代より耳鼻科医を志望しており、卒業後は、大阪大学医学部付属病院にて初期臨床研修を開始し、数多くの勉強をさせて頂きました。そこでの経験は、耳鼻科疾患だけでなく多岐に渡り、様々な疾患に柔軟に対応する事が求められ、困難な日々ではありましたが、自分自身にとって大変勉強になり成長する事が出来たと思います。今後は、耳鼻科医として、これらの経験を是非生かしたいと考えております。

りんくう総合医療センターでは、外来診療、手術、病棟管理を担当させて頂いております。まだまだ未熟な私ではありますが、諸先生方にサポートして頂き、大変充実した毎日を過ごしています。自分の出来る事が日々増えている実感があり、これは私にとって、かけがえのない喜びであります。今後も、私は自分の好きな事を追求し、学び、そして楽しむ事を常に心掛けていきたいと考えております。更に、自分自身が向上していく上で、日頃から社会に目を向け、多くの事に興味を持ち、幅広い視野を持つように努力していく所存であります。つきましては、今後とも宜しく御指導下さり、未熟者ではありますが、お引き立て頂きますようお願い申し上げます。



姓 名 中 谷 彩 香 (Nakatani Ayaka)

卒業年度 平成24年

出身校 近畿大学

出身地 大阪府

勤務先 JCHO 大阪病院

この度、大阪大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科に入局させていただきました中谷 彩香と申します。平成24年に近畿大学医学部を卒業後、府中病院にて2年間の初期臨床研修を終え、平成26年4月よりJCHO大阪病院にて後期研修医として勤務しております。

大阪府の泉大津市出身で、小中高は大阪市内へ通学し、大学の6年間と初期研修は南大阪でのびのびと過ごしてきました。大学では硬式テニス部に所属し、研修医の頃には仲間とテニスやゴルフ、マラソンなどにも挑戦しました。今回、久しぶりの都会に少し戸惑いもありますが、上級医の先生方にも恵まれ、日々新しいことを学べる喜びを感じております。もともと内科系、外科系のどちらに進むかも決まっていないまま、初期研修医がスタートしました。その中で、手を動かし診療することや、手術にも魅力を感じるようになりました。また研修医2年目になると、救急対応や内科初診外来を担当させて頂くようになり、耳鼻科疾患の主訴の多さ、幅広さを実感し、興味を持つようになりました。ただ、初期研修の病院では耳鼻科が閉鎖になっており、研修を受けることはできませんでしたが、大学病院や関連病院を見学した際に、多彩な手術や処置に魅力を感じ、また素敵な先生方の雰囲気に魅かれ耳鼻科医になることを決めました。

耳鼻科医として働き始めて約1か月半が経ちました。耳鼻咽喉科の専門性の高さ、扱う疾患の多さを実感しています。子供から大人まで扱う所や手術、外来、病棟での全身管理と1日の内で色々なことが出来る所にも魅力を感じています。今は日々の診療において、知識・技術の未熟さを痛感し、日々悪戦苦闘しています。勉強すべきことや経験すべきことはまだまだ山積みですが、毎日温かく楽しい先生方のもとで診療させていただいております。これから、少しでも役に立てるよう、日々精進していきたいと思います。今後とも、ご指導・ご鞭撻の程宜しくお願い致します。

補聴器相談医名簿（大阪府地方部会所属）

氏 名	勤 務 先	所在地	電 話
愛 場 庸 雅	大阪市立総合医療センター耳鼻咽喉科	大 阪 市	06-6929-1221
青 木 基	青木医院	大 阪 市	06-6351-7155
赤 城 ゆかり	あかぎ耳鼻咽喉科	吹 田 市	06-6337-0050
浅 井 英 世	浅井耳鼻咽喉科	大 阪 市	06-6696-3363
芦 田 健 太 郎	芦田医院	川 西 市	072-794-5280
天 野 かおり	若草第一病院耳鼻咽喉科	東 大 阪 市	072-988-1409
天 野 一	あまの耳鼻咽喉科	八 尾 市	072-922-8926
天 野 章 子	あまの耳鼻咽喉科	八 尾 市	072-922-8926
荒 井 潤	あらい耳鼻咽喉科	泉佐野市	072-462-3387
荒 木 南都子	大阪医科大学附属病院耳鼻咽喉科	高 橋 市	072-683-1221
在 田 理 香	第二東和会病院耳鼻咽喉科	高 橋 市	072-674-1008
有 本 啓 恵	ありもと耳鼻咽喉科	大 阪 市	06-4253-3737
池 上 彰 博	池上耳鼻咽喉科	高 石 市	072-262-4151
池 田 進	池田耳鼻咽喉科	大 阪 市	06-6731-4187
池 田 利 夫	池田耳鼻咽喉科	大 阪 市	06-6928-3741
石 川 一 彦	石川医院	茨 木 市	072-632-6050
石 川 雅 洋	いしかわ耳鼻咽喉科クリニック	大 阪 市	06-6322-6807
石 田 安 代	いしだ耳鼻咽喉科	門 真 市	072-881-9016
伊集院 隆 宏	千船病院耳鼻咽喉科	大 阪 市	06-6471-9541
櫻 原 健 吾	櫻原医院	大 阪 市	06-6661-4532
櫻 原 茂 之	櫻原医院	高 橋 市	072-694-7609
伊 藤 真 人	いとう耳鼻咽喉科	大 阪 市	06-7504-6745
乾 崇 樹	大阪医科大学附属病院耳鼻咽喉科	高 橋 市	072-683-1221
井 上 敦 子	井上クリニック	大 阪 市	06-6713-5703
井 上 克 彦	井上耳鼻咽喉科	枚 方 市	072-840-3430
今 井 貴 夫	大阪大学医学部附属病院耳鼻咽喉科	吹 田 市	06-6879-5111
今 中 政 支	いまなか耳鼻咽喉科	高 橋 市	072-676-1187
岩 井 詔 子	耳鼻咽喉科岩井クリニック	枚 方 市	072-867-1810
岩 井 大	関西医科大学附属滝井病院耳鼻咽喉科	守 口 市	06-6992-1001
岩 田 伸 子	いわた耳鼻咽喉科・アレルギークリニック	大 阪 市	06-6928-0234
岩 橋 利 彦	大阪大学医学部附属病院耳鼻咽喉科	大 阪 市	06-6879-5111
上 川 保 廣	上川耳鼻咽喉科	豊 中 市	06-6846-8787
上 杉 康 夫	大阪医科大学附属病院放射線科	高 橋 市	072-683-1221
上 田 大	岩野耳鼻咽喉科サービスセンター	豊 中 市	06-6862-2910
植 村 善 則	植村耳鼻咽喉科	松 原 市	072-333-8741
宇 野 敦 彦	大阪府立急性期・総合医療センター耳鼻咽喉科	大 阪 市	06-6692-1201
宇 野 吉 裕	宇野耳鼻咽喉科	大 阪 市	06-6709-7322
梅 本 匡 則	梅本耳鼻咽喉科	大 阪 市	06-6924-3387
鶴 山 昭 雄	鶴山耳鼻咽喉科医院	松 原 市	072-335-2105

氏名	勤務先	所在地	電話
鵜山太一	鵜山耳鼻咽喉科医院	松原市	072-335-2105
老木浩之	hi-mex 耳鼻咽喉科サージクリニック老木医院	和泉市	0725-47-3113
大崎康宏	市立吹田市民病院耳鼻咽喉科	吹田市	06-6387-3311
大島一郎	大島耳鼻咽喉科	豊中市	06-6849-8733
太田有美	大阪大学医学部附属病院耳鼻咽喉科	吹田市	06-6879-5111
大西かよ子	大西耳鼻咽喉科医院	大阪市	06-6704-4848
大西博昭	岡部耳鼻咽喉科医院	大阪市	06-6709-4849
大屋清二	大屋耳鼻咽喉科	大阪市	06-6702-8659
岡坂利章	ひびき耳鼻咽喉科	高槻市	072-676-8733
岡崎鈴代	大阪大学医学部附属病院耳鼻咽喉科	吹田市	06-6879-5111
岡田優			
岡本英樹	おかもと耳鼻咽喉科	大阪市	06-4302-8741
岡本秀彦	大阪大学医学部附属病院耳鼻咽喉科	吹田市	06-6879-5111
岡本雅典	岡本耳鼻咽喉科	東大阪市	06-6753-8741
奥西真帆	千船病院耳鼻咽喉科	大阪市	06-6471-9541
奥野吉昭	おくの耳鼻咽喉科	泉佐野市	072-462-3341
奥村隆司	奥村耳鼻咽喉科	大阪市	06-6571-3387
柿木裕史	柿木耳鼻咽喉科	河内長野市	0721-50-4649
柿本晋吾	柿本耳鼻咽喉科	大阪市	06-6936-7033
梶川泰	市立岸和田市民病院耳鼻咽喉科	岸和田市	072-445-1000
葛原敏樹	葛原耳鼻咽喉科	阪南市	072-471-6022
加藤匠子	加藤耳鼻咽喉科	大阪市	06-6719-8733
加藤伸一	加藤耳鼻咽喉科医院	堺市	072-277-8605
加藤真子	かとう耳鼻咽喉科	枚方市	072-852-8733
加藤寛	耳鼻咽喉科かとう医院	泉南郡	072-452-8733
金井理絵	北野病院耳鼻咽喉科	大阪市	06-6312-1221
金井龍一	かない耳鼻咽喉科	豊中市	06-6854-8733
金沢敦子	大阪医科大学附属病院耳鼻咽喉科	高槻市	072-683-1221
金田直子	関西医科大学附属瀧井病院耳鼻咽喉科	守口市	06-6992-1001
金子奈穂子	第一東和会病院耳鼻咽喉科	高槻市	072-671-1008
金丸眞一	北野病院耳鼻咽喉科	大阪市	06-6312-1221
鎌倉武史	箕面市立病院耳鼻咽喉科	箕面市	072-728-2001
鎌澤孝子	かまざわ耳鼻咽喉科	八尾市	072-943-1787
川上友美	行岡病院耳鼻咽喉科	大阪市	06-6371-9921
川上理郎	大阪府済生会吹田病院耳鼻咽喉科	吹田市	06-6382-1521
川崎英子	かわさき耳鼻咽喉科	大阪市	06-6180-2400
川寄良明	川寄耳鼻咽喉科	大阪市	06-6969-3322
川島佳代子	大手前病院耳鼻咽喉科	大阪市	06-6941-0484
川島貴之	八尾市立病院耳鼻咽喉科	八尾市	072-922-0881
河本光平	川村耳鼻咽喉科クリニック	大阪市	06-6939-8700

氏名	勤務先	所在地	電話
川本将浩	市立池田病院耳鼻咽喉科	池田市	072-751-2881
神原留美	市立吹田市民病院耳鼻咽喉科	吹田市	06-6387-3311
菊岡政久	蛭沼耳鼻咽喉科医院	東大阪市	0729-81-3517
木澤薫	大阪警察病院耳鼻咽喉科	大阪市	06-6771-6051
岸邦子	桝谷耳鼻咽喉科クリニック	大阪市	06-6706-3122
北尻雅則	関西医科大学天満橋総合クリニック耳鼻咽喉科	大阪市	06-6943-2260
北西剛	きたにし耳鼻咽喉科	守口市	06-6902-4133
北野睦三	近畿大学医学部附属病院耳鼻咽喉科	大阪狭山市	072-366-0221
北村健	北村耳鼻咽喉科	池田市	072-754-8733
木村裕毅	木村耳鼻咽喉科	富田林市	0721-29-3387
木村淑美	生野中央病院耳鼻咽喉科	大阪市	06-6751-3731
久内一史	きゅうない耳鼻咽喉科	大阪市	06-4399-5971
京本良一	京本耳鼻咽喉科	寝屋川市	072-830-0087
清川裕美	中嶋、清川とりかいクリニック	摂津市	072-650-3636
楠木誠	中村耳鼻咽喉科	大阪市	06-6925-7833
久保武志	くぼ耳鼻咽喉科クリニック	大阪市	06-6131-5588
久保井敬之	久保井耳鼻咽喉科	摂津市	072-625-4133
隈部洋平	大阪赤十字病院耳鼻咽喉科	大阪市	06-6774-5111
久門正義	耳鼻咽喉科くもん医院	四条畷市	072-877-3387
小池薫	小池耳鼻咽喉科クリニック	貝塚市	0724-23-8741
康勲	康耳鼻咽喉科	大阪市	06-6751-4000
合田薫	藍野病院耳鼻咽喉科	茨木市	072-627-7611
上月景之	上月耳鼻咽喉科医院	豊中市	06-6846-8733
河野幹子	河野耳鼻咽喉科クリニック	東大阪市	072-967-0057
後藤和彦	後藤耳鼻咽喉科	寝屋川市	072-832-7060
小西将矢	関西医科大学附属滝井病院耳鼻咽喉科	守口市	06-6992-1001
小林正明	小林耳鼻咽喉科	大阪市	06-6779-8239
小林政美	耳鼻咽喉科こばやしクリニック	泉佐野市	072-467-3387
近藤千雅	こんどう耳鼻咽喉科	大阪市	06-6973-3387
齊藤和也	近畿大学医学部附属病院耳鼻咽喉科	大阪狭山市	072-366-0221
坂哲郎	さか耳鼻咽喉科	大阪市	06-6957-1187
阪上博史	阪上耳鼻咽喉科医院	茨木市	072-622-2558
榎德子	阿部耳鼻咽喉科	大阪市	06-6692-1669
榎原淳二	榎原耳鼻咽喉科クリニック	吹田市	06-6831-3387
坂口喜清	クリニック石田	大阪市	06-6676-1700
坂倉淳	大阪府済生会茨木病院耳鼻咽喉科	茨木市	072-622-8651
坂下哲史	大阪市立大学医学部附属病院耳鼻咽喉科	大阪市	06-6645-2381
坂本平守	坂本耳鼻咽喉科クリニック	大阪市	06-6632-8735
櫻井幹士	櫻井耳鼻咽喉科	河内長野市	0721-54-5771
稻田猛真	りんくう総合医療センター耳鼻咽喉科	泉佐野市	072-469-3111

氏名	勤務先	所在地	電話
佐々木 崇博	市立豊中病院耳鼻咽喉科	豊中市	06-6843-0101
佐々木 知	佐々木耳鼻咽喉科クリニック	茨木市	072-636-6650
薩摩 好彦	よしひこ耳鼻咽喉科	大阪市	06-6477-6668
佐藤 崇	大阪警察病院耳鼻咽喉科	大阪市	06-6771-6051
里見 文男	里見耳鼻咽喉科	大阪市	06-6655-6675
澤田 亜也子	さわだクリニック	大阪市	06-6776-8322
澤田 達	酒井耳鼻咽喉科	大阪市	06-6933-1133
芝埜 彰	大阪回生病院耳鼻咽喉科	大阪市	06-6393-6234
島田 健一	しまだ耳鼻咽喉科	羽曳野市	072-954-3301
島田 純	しまだ耳鼻咽喉科医院	堺市	072-292-2395
島野 卓史	大阪府済生会泉尾病院耳鼻咽喉科	大阪市	06-7659-6111
清水 順一	星田南病院耳鼻咽喉科	交野市	072-891-3500
下條 信次	下條耳鼻咽喉科医院	大阪市	06-6932-8711
真貝 佳代子	市立吹田市民病院耳鼻咽喉科	吹田市	06-6387-3311
杉浦 緑	杉浦耳鼻咽喉科・アレルギー科	大阪市	06-6773-8741
杉丸 忠彦	すぎまるクリニック	大阪市	06-6760-3387
鈴木 正樹	すずもと耳鼻咽喉科	泉南市	072-484-2777
須永 肇一	耳鼻咽喉科すながクリニック	吹田市	06-6310-8711
角南 貴司子	大阪市立大学医学部附属病院耳鼻咽喉科	大阪市	06-6645-2381
須波 浩之	すなみクリニック	河内長野市	0721-62-8711
妙中 啓子	たえなか耳鼻咽喉科	大阪市	06-6621-1376
高木 二郎	高木耳鼻咽喉科	寝屋川市	072-834-3387
高島 凱夫	京橋耳鼻咽喉科	大阪市	06-6921-0242
高野 啓江	たかの耳鼻咽喉科	藤井寺市	072-952-3387
高橋 佳文	たかはし耳鼻咽喉科クリニック	豊中市	06-6841-3311
高山 雅裕	たかやま耳鼻咽喉科	大阪市	06-6678-3387
高山 靖史	たかやま耳鼻咽喉科	大東市	072-889-1787
滝本 泰光	大阪大学医学部附属病院耳鼻咽喉科	吹田市	06-6879-5111
武嶋 寛剛	たけしま耳鼻咽喉科医院	東大阪市	072-986-3341
竹林 惠子	竹林医院	大阪市	06-6340-1181
竹本市 紅	耳鼻咽喉科竹本クリニック	高石市	072-272-3387
武本 憲彦	大阪大学医学部附属病院耳鼻咽喉科	吹田市	06-6879-5111
竹山 豊	竹山耳鼻咽喉科	堺市	072-239-3341
田中 朝子	有澤総合病院耳鼻咽喉科	枚方市	072-847-2606
田中 治	田中耳鼻咽喉科	大阪市	06-6678-8787
田中 由基夫	耳鼻咽喉科 田中医院	大阪市	06-6301-6783
田辺 智子	田辺耳鼻咽喉科	豊中市	06-6338-7319
田邊 英徳	田辺耳鼻咽喉科	八尾市	072-998-8741
田村 隆之	(医)タムラ耳鼻咽喉科	吹田市	06-6339-1133
田村 学	おおさか往診クリニック	吹田市	06-6152-9566

氏名	勤務先	所在地	電話
田矢直三	田矢耳鼻咽喉科	大阪市	06-6658-5001
近野哲史	市立岸和田市民病院耳鼻咽喉科	岸和田市	072-445-1000
竹本恵美子	おくだ耳鼻咽喉科	堺市	072-260-3387
塚本康広	塚本耳鼻咽喉科	大阪市	06-6474-9000
辻雄一郎	富田つじ耳鼻咽喉科	高槻市	072-696-3633
辻竜平	辻耳鼻咽喉科医院	守口市	06-6901-3288
辻川覚志	つじかわ耳鼻咽喉科	門真市	072-884-8770
葛佳明	南大阪葛耳鼻咽喉科	堺市	072-363-3387
津田武	八尾市立病院耳鼻咽喉科	八尾市	072-922-0881
津田守	津田耳鼻咽喉科クリニック	吹田市	06-6338-3387
恒川恵治	耳鼻咽喉科恒川医院	東大阪市	072-964-1587
恒川宣子	大阪鉄道病院耳鼻咽喉科	大阪市	06-6628-2221
鶴田至宏	鶴田耳鼻咽喉科クリニック	八尾市	072-997-4187
鶴原秀晃	鶴原耳鼻咽喉科	枚方市	072-897-2433
徳原靖剛	とくはら耳鼻咽喉科	東大阪市	06-6720-3387
朝永康徳	ともなが耳鼻咽喉科	吹田市	06-4861-3387
豊田孝行	あらい耳鼻咽喉科	泉佐野市	072-462-3387
中井健	小西耳鼻咽喉科医院	大阪市	06-6351-3387
永井香織	ながい耳鼻咽喉科	茨木市	072-645-3387
中川あや	市立池田病院耳鼻咽喉科	池田市	072-751-2881
中出多子	なかで耳鼻咽喉科	岸和田市	072-493-3392
中野智昭	大北メディカルクリニック	大阪市	06-6344-0380
中原啓	りんくう総合医療センター耳鼻咽喉科	泉佐野市	072-469-3111
長原昌萬	長原耳鼻咽喉科	大阪市	06-6976-8733
中村晶彦	中村耳鼻咽喉科	堺市	072-240-0087
中村正三	中村耳鼻咽喉科	東大阪市	06-6745-1427
中山和子	あいば耳鼻咽喉科	岸和田市	072-422-1306
中山堯之	春山会 中山耳鼻咽喉科・気管食道科	岸和田市	072-422-3777
浪花有紀	南医院	堺市	072-241-6661
西池季隆	大阪労災病院耳鼻咽喉科	堺市	072-252-3561
西浦弘志	にしゅら耳鼻咽喉科	寝屋川市	072-830-1133
西田明子	北野病院耳鼻咽喉科	大阪市	06-6312-1221
西田尚司	西田耳鼻咽喉科	松原市	072-338-3341
西田高也	西田医院	泉佐野市	072-462-3356
西村洋	大阪府立母子保健総合医療センター耳鼻咽喉科	和泉市	0725-56-1220
西村将人	にしむら耳鼻咽喉科クリニック	大阪市	06-6761-0265
西本明美	西本耳鼻咽喉科	大阪市	06-6606-3317
丹生真理子	丹生医院	大阪市	06-6581-0090
二村吉継	二村耳鼻咽喉科	大阪市	06-6622-2687
根来篤	ねごろ耳鼻咽喉科クリニック	阪南市	072-471-3387

氏名	勤務先	所在地	電話
野井理	野井耳鼻咽喉科	豊中市	06-6873-4133
野田和裕	のだ耳鼻咽喉科	大阪市	06-6793-8733
野之口英予	野々口耳鼻咽喉科	和泉市	0725-41-8733
萩森伸一	大阪医科大学附属病院耳鼻咽喉科	高槻市	072-683-1221
橋内巧弘	橋内耳鼻咽喉科	大阪市	06-4257-3387
長谷川寛治	(医) 長谷川耳鼻咽喉科医院	茨木市	072-633-7145
長谷川恵子	大阪府済生会吹田病院耳鼻咽喉科	吹田市	06-6382-1521
長谷川哲	長谷川耳鼻咽喉科	大阪市	06-6767-2484
長谷川太郎	長谷川耳鼻咽喉科	大阪市	06-6582-3387
羽田史子	関西電力病院耳鼻咽喉科	大阪市	06-6458-5821
八川公爾	PL病院耳鼻咽喉科	富田林市	0721-24-3100
八田千広	千扇会 はった耳鼻咽喉科	大阪市	06-6453-4187
服部賢二	住友病院耳鼻咽喉科	大阪市	06-6443-1261
馬場一泰	大阪歯科大学耳鼻咽喉科	大阪市	06-6910-1081
馬場謙治	馬場耳鼻咽喉科	大阪市	06-6686-3387
濱田聰子	関西医科大学香里病院耳鼻咽喉科	寝屋川市	072-832-5321
浜田節子	浜田医院	枚方市	072-831-0202
林伊吹	いぶき耳鼻咽喉科	豊中市	06-6849-3387
林治博	林耳鼻咽喉科	大阪狭山市	072-365-4888
林与志子	(医) 勝田クリニック	茨木市	072-633-3111
林律	(医) 林耳鼻咽喉科	枚方市	072-846-2155
端山昌樹	八尾市立病院耳鼻咽喉科	八尾市	072-922-0881
原田博文	(医) 原田耳鼻咽喉科	羽曳野市	072-953-7384
東川雅彦	大阪府済生会中津病院耳鼻咽喉科	大阪市	06-6372-0333
東野正明	大阪医科大学附属病院耳鼻咽喉科	高槻市	072-683-1221
東野昌子	ひがしの耳鼻咽喉科	泉佐野市	072-464-8741
樋上訓子	ひがみ耳鼻咽喉科クリニック	堺市	072-237-2021
疋田紀子	富田林病院耳鼻咽喉科	富田林市	0721-29-1121
平塚康之	大阪赤十字病院耳鼻咽喉科	大阪市	06-6774-5111
廣瀬正幸	大阪府立急性期・総合医療センター耳鼻咽喉科	大阪市	06-6692-1201
福瀬信也	フクセ耳鼻咽喉科	大阪市	06-6683-8793
藤岡孝典	大阪市立大学医学部附属病院耳鼻咽喉科	大阪市	06-6645-2381
藤田修治	高槻赤十字病院耳鼻咽喉科	高槻市	072-696-0571
古谷博之	(医) フルヤ耳鼻科	豊中市	06-6336-4133
法貴昭	松本病院附属松本耳鼻科	大阪市	06-6458-6709
前田秀典	東大阪市立総合病院耳鼻咽喉科	東大阪市	06-6781-5101
正本建夫	まさもとクリニック	大阪市	06-6791-3315
増村千佐子	大阪大学医学部附属病院耳鼻咽喉科	吹田市	06-6879-5111
松代直樹	大阪警察病院耳鼻咽喉科	大阪市	06-6771-6051
松田美貴	松田クリニック	藤井寺市	072-931-5551

氏名	勤務先	所在地	電話
松村光	松村医院	茨木市	072-622-2014
松本達始	松本耳鼻咽喉科	池田市	072-754-4187
松山浩吉	松山耳鼻咽喉科	東大阪市	06-6784-8871
丸川恭子	丸川耳鼻咽喉科	大阪市	06-6944-0006
丸山ひろみ	まるやま耳鼻咽喉科	吹田市	06-6170-8126
水上健之亮	水上クリニック	大阪市	06-6768-5858
道場隆博	住友病院耳鼻咽喉科	大阪市	06-6443-1261
湊川徹	姫路獨協大学	姫路市	079-223-2211
南豊彦	みなみ耳鼻咽喉科クリニック	柏原市	072-970-3387
南裕隆	みなみ耳鼻咽喉科クリニック	岸和田市	072-428-3341
南谷隆明	いづみクリニック耳鼻咽喉科	阪南市	072-472-5551
南谷肇子	いづみクリニック耳鼻咽喉科	阪南市	072-472-5551
峰晴昭仁	みねはる耳鼻咽喉科	高槻市	072-662-3387
箕輪靖弘	野上病院耳鼻咽喉科	泉南市	072-484-0007
宮崎信	耳鼻咽喉科・アレルギー科 まことクリニック	四條畷市	072-878-4187
宮崎裕子	みやざきクリニック	大阪市	06-6567-8781
宮下美恵	近畿大学医学部附属病院耳鼻咽喉科	大阪狭山市	072-366-0221
宮本一良	宮本耳鼻咽喉科	東大阪市	072-984-8733
三好敏之	三好耳鼻咽喉科	池田市	072-761-8023
向井貞三	なにわ病院耳鼻咽喉科	大阪市	06-6568-2681
宗田由紀	大村耳鼻咽喉科	高槻市	075-963-2080
宗本由美	ザ・北浜タワー耳鼻咽喉科皮膚科クリニック	大阪市	06-4707-8700
村本大輔	村本耳鼻咽喉科	大阪狭山市	072-365-1733
望月裕美	ならむらクリニック	大阪市	06-6205-3341
本山壮一	本山耳鼻咽喉科	大阪市	06-6555-9716
森京子	大阪医科大学附属病院耳鼻咽喉科	高槻市	072-683-1221
森克己	もり耳鼻咽喉科	堺市	072-250-8669
森靖子	千里中央 ENT クリニック	豊中市	06-6155-3387
森口誠	森口耳鼻咽喉科	枚方市	072-835-7533
森崎昇	森崎耳鼻咽喉科	堺市	072-232-8733
森鼻哲生	大阪大学医学部附属病院耳鼻咽喉科	吹田市	06-6879-5111
森脇計博	森脇耳鼻咽喉科	大阪市	06-6700-6400
矢野純也	やの耳鼻咽喉科	松原市	072-339-3387
山岡俊哉	山岡耳鼻咽喉科	羽曳野市	072-950-5302
山口浩子	竹田クリニック	松原市	072-332-8118
山崎典子	山崎医院	大阪市	06-6971-3436
山下麻紀	大阪府立母子保健総合医療センター耳鼻咽喉科	和泉市	0725-56-1220
山田佳	多根総合病院耳鼻咽喉科	大阪市	06-6581-1071
山田光一郎	大阪赤十字病院耳鼻咽喉科	大阪市	06-6774-5111
山田浩二	やまだ耳鼻咽喉科	大阪市	06-4302-3387

氏名	勤務先	所在地	電話
山本圭介	市立豊中病院耳鼻咽喉科	豊中市	06-6843-0101
山本祐三	耳鼻咽喉科・アレルギー科山本医院	寝屋川市	072-825-8881
吉岡揮久	吉岡耳鼻咽喉科	大阪狭山市	072-368-1876
吉田淳一	吉田耳鼻咽喉科	大阪市	06-6773-6565
吉田尚生	大阪赤十字病院耳鼻咽喉科	大阪市	06-6774-5111
李英煥	りー耳鼻咽喉科	吹田市	06-6878-3364
和田安弘	わだ耳鼻咽喉科	大阪市	06-6397-8733
和田匡史	大阪市立大学医学部附属病院耳鼻咽喉科	大阪市	06-6645-2381
和田忠彦	関西電力病院耳鼻咽喉科	大阪市	06-6458-5821
渡辺猛世	渡辺耳鼻咽喉科	大阪市	06-6981-7000
渡邊尚代	中村耳鼻咽喉科	高槻市	072-693-0372
渡邊大樹	松下記念病院耳鼻咽喉科	守口市	06-6992-1231

日耳鼻発第125号

平成25年3月10日

平成25年度 日本耳鼻咽喉科学会 社療部保険医療委員会ワークショップおよび全国会議報告

平成26年1月25日(土)(於:東海大学校友会館)

担当理事:竹中 洋、村上信五、西崎和則、肥塚 泉

委員長:藤岡 治

全国会議

演題「地域包括ケアについてー超高齢社会を迎えてー」

講師 迫井正深 厚生労働省 老健局老人保健課長
司会:竹中 洋理事

超高齢化の進展により近未来にどの様な医療が展開されるか国家プロジェクトをお聞きすることで超高齢社会に向けての日耳鼻のあり方を検討する機会としたい。

1. 社会の急速な高齢化

75歳前後で身体の変化が生じ、介護も急速に増えるため、75歳が一つの目安であるが、日本では現実に75歳以上の人口自体が増えている一方で若年者が減少していることなどにより、人口ピラミッドが大きく変わってきている。人口ピラミッドから見た1人の高齢者(65歳以上)を支える若年者(20~64歳)は1990年 1人／5.1人、2010年 1人／2.6人、2025年 1人／1.8人となり、今後1人の若者が一人の高齢者を支えるという厳しい社会が訪れる。支える体制側の減少にどの様に対応していくか考えざるを得ない。日本の社会保障(年金・医療・介護)は制度改革を行いながら、給付の確保を図ってきたが、日本の医療は世界第一の評価と共に平均寿命が世界最長水準となり、保障給付総額の国民所得額に占める比率が年々増加している。

一方、介護保険制度の現状(12年間)として、下記のようになっている。

	2000年4月	2012年4月	
65歳以上の被保険者数	2165万人	→ 2986万人	1. 38倍
要介護(要支援)認定者	218万人	→ 533万人	2. 44倍
サービス利用者			
在宅サービス利用者	97万人	→ 328万人	3. 38倍
施設サービス利用者	52万人	→ 86万人	1. 65倍
地域密着型サービス利用者	-	→ 3万人	
計	149万人	445万人	2. 99倍

2. 地域包括ケアシステム構築を目指して

超高齢社会に対して国家プロジェクトとして動いている、地域包括ケアシステムという概念について述べる。

・サービス提供体制の在り方

概ね、30分以内(日常生活域)に生活上の安全・安心・健康を確保する為の多様なサービスを24時間365日通じて、住み慣れた地域での生活を継続することを目標とする。医療というのは基本的には非日常であり、疾病を克服し日常に帰るために、全国1700市町村の地域毎の実情に応じて地域包括ケアシステムはデザインされて作りあげられていく。

今後は、少子高齢化や財政状況から、介護保険に代表される社会保険制度およびサービスなどの共助やセーフティネットである公助の大幅な拡充を期待することは難しく、高齢者本人自らが支え、お互いが支え合うという、住民によるボランティアという自助・互助などを活かした体制が重要となる。

また、65歳以上高齢者の認知症高齢者の日常生活自立度Ⅱ以上の高齢者が増え、65歳以上人口の1／10人程度となっている。また65歳以上の単独世帯や夫婦のみの世帯も増え、一層互助が必要となり、高齢者も生活支援に関して、自身も役に立つということが認知症の進行にも有用であろう。認知症施策推進5カ年計画(オレンジプラン)では、認知症に関して危機発生後の事後的対応から、危機の発生を防ぐ早期事前の対応に基本が置かれる様になった。

3. 地域包括ケアシステム構築に向けた地域作りの推進

上記のように、地域作りでは、本人を含めた住民全体でサービスを支えあうという自助、互助が不可欠となること、さらには生活支援の担い手として高齢者自身が社会参加することで高齢者自身の介護予防につながるという相乗効果がある。

スポーツ関係・ボランティア・趣味関係のグループ等への社会参加の割合が高い地域程、転倒や認知症やうつリスクは低い傾向がみられるとされ、トータルで地域活力を高めることを考えることが地域作りに大事である。最後に高齢者リハビリテーションについて今迄、サービス利用者も提供者も機能回復訓練に重きを置き過ぎていたのではないかと指摘し、単なる機能回復訓練ではなく全人間的復権を理念として日常生活の活動を高め、家庭や社会への参加を可能にし、その自立を促すものが望まれる。

保険医療委員会活動報告

委員長 藤岡 治

今年度の委員会活動が報告された。

- ・全国協議会協議議題ストック化を始めているが、内容の公開については検討中である。
- ・耳鼻咽喉科実態調査に関して経年的・具体的資料としては保険点数改定時の貴重な資料となっているが、定点調査であり、対象年齢分布が少しずつ高齢化しているため、診療報酬改定年度の間の年に調査依頼機関を見直すことを検討中である。
- ・診療報酬改定に際し、外保連、日本医師会を通じて要望項目を提出している。
- ・スギ花粉症に関して、舌下免疫療法が新たに認められることが決まっている。処方する医師の講習会受講が必須であり、日耳鼻でも講習会を開催している。

ワークショップ

演題：「耳鼻咽喉科と地域医療－地域包括ケアとの係わり－」

司会：西崎 和則 担当理事

1. 耳鼻咽喉科実態調査からみえてくる耳鼻咽喉科診療の問題 川寄良明委員

日耳鼻過去9年間の実態調査と昭和53年から実施している大阪府耳鼻咽喉科医会のレセプト調査をもとに報告した。日/件、点/日は減少し、点/件も上昇は止まっている。一方で、初診の割合が増えている。また大阪府の疾病構造から、急性疾患を中心に小児と高齢者と診る科となりつつあることがわかる。この点に関して、新しい専門医制度の発足に伴う総合診療医の登場で、急性炎症患者の受診減少をきたす恐れがあり、存続の危機を招く可能性もある。全国的には処置回数は減少する中で、検査の頻度は伸びている。特にCCDが新設され平衡機能3は点数・回数構成比共に伸びている。診療所でも行える検査が点数上認められれば、増点となると考えられる。

これらの状況から、従来のスタイル、領域にとどまらず、新たな領域へ積極的に進出することが必要である。

2. 嘉下内視鏡検査を中心とした在宅医療－耳鼻咽喉科と地域包括ケア－

部坂弘彦委員

東京都豊島区では在宅医療ネットワーク推進事業(東京都の3モデル事業の一つ)において、病院から在宅療養生活に移行する際の退院時カンファレンスを通じ、医科・歯科・薬科が相互に連携した支援体制を構築した。その一環として、人口27万人、老齢化率(65歳以上)20%の当地域で嚥下障害の指導に取り組んでいる。耳鼻咽喉科医26人の中でVEをする医師は3人であるが、嚥下障害往診の流れとしては、依頼により、豊島歯科医師会立のあぜりあ歯科診療所がコーディネートし、耳鼻咽喉科へ連絡が入り、往診でのVEにより診断をする。そして耳鼻咽喉科・歯科・主治医がリハビリメニューを作成し、実際の訓練指導は日本摂食・嚥下リハビリテーション学会所属の歯科医・歯科衛生士等が行っている。歯科医師・多職種・行政との連携とのことで、地域における耳鼻咽喉科の役割が認識されている。

3. 在宅の嚥下障害診療－地域包括ケアの今後を踏まえて－

藤田彰 兵庫県保険医療委員長

平成12年より兵庫県(主として神戸市)では嚥下障害に積極的な取り組みをしているが、参画する耳鼻咽喉科医が増えていない。神戸市内(150施設)のアンケートでは40名が嚥下障害を診るという意思表示をしているが、現実には在宅に携わっているのは10～15名である。増えない理由として、保険診療上、往診は定期的なし計画的に患者に赴いて診療を行った場合には算定できず、一方で計画的な医学管理の下に定期的に訪問して診療を行った場合に算定される在宅患者訪問診療料は、在宅主治医が算定しているため耳鼻咽喉科が算定できないという矛盾がある。嚥下は専門性をもって継続が必要であり、今後は保険診療に何らかの評価をしなければ、耳鼻咽喉科が在宅へ参加するのは難しい。診断後のリハビリをどうするか、そして介護保険における生活介護訪問リハビリでは生活介護で給付枠は埋まっており保険の中で新たに嚥下のリハビリの入る余地のない点、通所介護(デイサービス)の活用に関して受ける側に認識がないこと、在宅寝たきり最重度嚥下障害患者には継続的な耳鼻咽喉科診療は事実上できないなど種々の問題点がある。神戸では嚥下在宅リハビリを担当する言語聴覚士との連携により耳鼻咽喉科診療に対する理解を深めてもらうことや、在宅における嚥下障害に対して耳鼻咽喉科医が係わることで対応の質の向上に努めている。今後も、この問題に対する専門性と継続した診療が必要な場合のある実情に社会的認知を求めていくことが重要である。

日耳鼻発第126号

平成26年3月10日

平成25年度 日本耳鼻咽喉科学会 産業・環境保健委員会全国委員長会議報告

平成26年1月25日(土)(於:東海大学校友会館)

担当理事:原 晃、阪上雅史 委員長:佐藤宏昭

出席者：八木理事長、原・阪上両担当理事、佐藤委員長、委員4名、

各地方部会委員長他55名。

会議に先立ち、八木理事長から挨拶があった。

大山孜郎・杉原三郎両委員の司会により、以下の如く会議が進められた。

1. 特別講演

「労働衛生行政の動向について」

厚生労働省労働基準局安全衛生部労働衛生課長 泉 陽子

産業保健への支援体制については、従来の産業保健推進センター・地域産業保健センター・メンタルヘルス支援対策センターの三事業を一元化し労働者健康福祉機構が実施し、医師会が専門的立場から協力する構図が示され、平成26年度事業としてスタートすることとなった。

中小企業の支援については重点項目に限らず相談を受けるようにし、各事業所を訪問することも有意義であり推奨したいとの考えが示された。

2. 日耳鼻産業・環境保健委員会報告

佐藤委員長から、産業・環境保健講習会(騒音性難聴の部)実施報告ならびに騒音性難聴担当医名簿更新の依頼が行われた。和田委員から、小規模事業所における騒音性難聴防止のための委員会活動として昨年施行した全国地域産業保健センターアンケート調査報告があった。原担当理事から、厚生労働省との折衝の現状報告と、アンケート調査結果に関する意見を寄せていただくよう依頼があった。

3. 地方部会産業・環境保健委員会報告

埼玉県地方部会・武石委員、愛知県地方部会・安藤委員長代理、兵庫県地方部会・矢田委員長から各県における平成25年度の地方部会産業・環境保健委員会活動報告があった。



平成25年度 日本耳鼻咽喉科学会 福祉医療・成人老年委員全国会議報告

平成26年1月26日（土）（於：東海大学校友会館）

担当理事：喜多村健、伊藤壽一 委員長：田山二朗

挨拶 八木聰明理事長

開会の辞 喜多村 健担当理事

報告事項

田山二朗委員長

1. 平成24・25年度に7回委員会を開催し、成人・老年福祉医療活動について協議を行った。
2. 平成24年度福祉医療委員全国会議を平成25年1月26日に、平成25年度福祉医療委員全国会議を平成26年1月25日に東京都において開催した。
3. 第38回全国身体障害者福祉医療講習会・第18回補聴器キーパーソン全国会議を、愛媛県地方部会の担当で平成24年6月2・3日松山市において開催した。また、第39回全国身体障害者福祉医療講習会・第19回補聴器キーパーソン全国会議を、静岡県地方部会の担当で平成25年6月8・9日浜松市において開催した。
4. 日本耳鼻咽喉科学会補聴器相談医の新規委嘱は平成24年179名、平成25年172名で、現在までの補聴器相談医認定数は4197名となった。
5. 日本耳鼻咽喉科学会補聴器相談医制度の適切な運営を行い、委嘱、および更新のための講習会開催の支援を行った。
6. 補聴器適合に関する診療情報提供書を作成し、ホームページに掲載した。
7. 障害者総合支援法に基づく補装具の支給についての見解をまとめた。

平成25年度事業計画

<研究会および学術講演会等事業>

1. 平成26年度福祉医療・成人老年委員全国会議を平成27年1月に東京都にお

いて開催する。

2. 第40回全国身体障害者福祉医療講習会・第20回補聴器キーパーソン全国会議を大分県地方部会の担当で平成26年6月21・22日大分市において開催する。

＜社会保障に関する耳鼻咽喉科学的研究調査事業＞

3. 「補聴器販売に関する(社)日本耳鼻咽喉科学会の基本方針」の実現に向けて、学会が行う活動の検討を行い、補聴器キーパーソン活動の円滑な運営を図る。
4. 身体障害者福祉に関連して、耳鼻咽喉科の専門的立場から障害認定やその運用、補装具費支給が適切に実施されるように検討を行う。
5. 中央・地方官庁の福祉医療担当部門、医師会ならびに関係団体との連携を密にし、障害者高齢者の福祉の充実に寄与する。
6. 日本耳鼻咽喉科学会補聴器相談医制度の適切な運営を行い、委嘱、および更新のための講習会開催の支援を行う。

＜その他＞

7. 当委員会が関係する日本耳鼻咽喉科学会ホームページ掲載項目について検討する。

講 演

司会 伊藤壽一担当理事

「障害者総合支援法等について」

厚生労働省社会援護局障害保健福祉部企画課 森岡久尚

1. 障害保健福祉政策全般について

障害者の総数は787.9万人であり、人口の約6.2%に相当し、そのうち身体障害者は393.7万人、知的障害者は74.1万人、精神障害者は320.1万人である。障害者総数全体は増加傾向にあり、特に、65歳以上の増加が多く、在宅・通所の障害者が増加傾向となっている。

身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、精神保健福祉法が次第に統合され、平成18年に障害者自立支援法、平成24年に障害者総合支援法が成立した。これにより行政がサービス内容を決定、事業者を特定し、事業者が受託者

としてサービスを提供する措置制度から、障害者の自己決定を尊重し、事業者と利用者の対等の関係から、契約によるサービスを利用する支援費制度へ変換した。支援法のポイントは①障害者政策を3障害一元化、②利用者本位のサービス体系に再編、③就労支援の抜本的強化、④支給決定の透明化、明確化、安定な財源の確保である。

給付・事業としては、介護給付、訓練等給付、自立支援医療、補装具、地域生活支援事業があるが、実施主体は市町村であり、都道府県がこれをバックアップする体制となっている。

財源確保として、国の費用負担を強化(費用の1/2を負担)し、利用者も応分の負担を求めており、本人及び配偶者の所得により負担額の上限を設けており、障害福祉サービス利用者の93.4%が無料でサービスを受けている。障害福祉サービス利用者は年々増加しており、予算額もこの10年間で2倍以上の増加となっている(平成25年度9,314億円)。

2. 障害者総合支援法について

平成18年の障害者自立支援法が見直され、障害者総合支援法に至る訳であるが、その特徴は以下のとくである。

1) 趣旨：障害者制度改革推進本部等における検討をふまえて、地域社会における共生の実現に向けて、障害福祉サービスの充実等障害者の日常生活および社会生活を総合的に支援するため、新たな障害保健福祉施策を講ずるものとする。

2) 概要

①題名：「障害者自立支援法」を「障害者の日常生活および社会生活を総合的に支援するための法律(障害者総合支援法)」とする。

②基本理念：法に基づく日常生活・社会生活の支援が、共生社会を実現するため、社会参加の機会の確保および地域社会における共生、社会的障壁の除去に資するよう、総合的かつ計画的に行われることを法律の基本理念として新たに掲げる。

③障害者の範囲：『制度の谷間』を埋めるべく、障害者の範囲に難病等を加える。

④障害支援区分の創設：「障害程度区分」について、障害の多様な特性その他の心身の状態に応じて必要とされる標準的な支援の度合いを総合的に示す「障害支援区分」に改める。

⑤障害者に対する支援

- i. 重度訪問介護の対象拡大
- ii. 共同生活介護(ケアホーム)の共同生活援助(グループホーム)への一元化
- iii. 地域移行支援の対象拡大
- iv. 地域生活支援事業の追加

⑥サービス基盤の計画的整備

- i. 障害福祉サービス等の提供体制の確保に係る目標に関する事項及び地域生活支援事業の実施に関する事項についての障害福祉計画の策定
- ii. 基本指針・障害福祉計画に関する定期的な検証と見直しを法定化
- iii. 市町村は障害福祉計画を作成するに当たって、障害者等のニーズ把握等を行うことを努力義務化
- iv. 自立支援協議会の名称について、地域の実情に応じて定められるよう弾力化するとともに、当事者や家族の参画を明確化

3) 平成25年4月(一部は平成26年4月) 施行

4) 検討項目：法の施行後3年を目途として検討するべき項目が挙げられている。

障害者の範囲の見直しとして130疾患の難病が加えられたが、今後300疾患程度に拡大の予定である。

3.失語症患者の障害認定について

失語症患者の障害認定は、音声・言語・そしゃく嚥下機能障害に含まれ3級と4級とに分かれるが、他の障害に比し障害等級が軽いのではないか。なお高次機能障害として、失語以外に、失認や失行があるが、これらは精神障害保健福祉手帳の対象としている。

協議事項

司会 田山二朗委員長

1. 全国福祉医療委員長・補聴器キーパーソンへのアンケート調査結果について 「各地域での福祉医療の実態・問題点について」

- 1) キーパーソン全国会議を独立させ、日耳鼻総会や聴覚医学会総会の会期内に開催するのが有り難い。

回答) 全国身体障害者福祉医療講習会と併せて開催されるに至った経緯が小寺相談役より説明された。

- 2) 認定補聴器店以外で購入された補聴器を患者が持ち込んだ時の対応として、どうすればよいか。

回答) 患者の利益を考えて対応するのが原則である。又補聴器店を指導するのが補聴器相談医の役目でもある。

- 3) 補聴器相談医の講習会等の情報は補聴器キーパーソンの個人的なやり取りに依存しているが、日耳鼻事務局の方で対応が可能か。

回答) ホームページに講習会の情報掲載が可能か、理事会で検討して頂く。

2. 軽・中等度難聴児への補聴器購入費助成事業について：杉内智子

軽・中等度難聴児の補聴器助成事業に至る背景、実施の情報などが説明された。

全国市町村1742中、821市町村で助成事業が行われており、徐々に広がっている。尚、各自治体の実施情報に関しては、直接担当部門に問い合わせることがもっとも確実であるが、一般社団法人全日本難聴者中途失聴者団体連合会(全難聴)のホームページ(<http://www.zennancho.or.jp/>)にアクセスして、全難聴専門部の難聴医療対策部(http://www.zennancho.or.jp/hearing_aid/hearing_aid.html)からも一部得る事ができる。

3. その他

閉会の辞

伊藤壽一担当理事

資料は会議に出席された各地方部会の委員がお持ちです。

//////////////////////////////

日耳鼻発第128号

平成26年3月10日

平成25年度 日本耳鼻咽喉科学会 福祉医療・乳幼児担当者全国会議報告

平成26年1月26日(日)(於:東海大学校友会館)
担当理事:伊藤壽一、喜多村健 委員長:守本倫子

1. 開会の辞: 伊藤 壽一 担当理事

本年度は多くの調査があったため全国の乳幼児担当者の方に多くの負担をおかけしていることについての謝意を含む開会の辞があった。

2. 平成26年度事業計画

委員長より、平成26年度の当委員会の事業計画が資料に基づき行われた。

3. 平成24年度3歳児・1歳6ヶ月児聴覚検診アンケート調査報告

アンケート内容は昨年と同様で、地区ブロックごとに担当者の報告があり、資料に基づいて総括を行った。全国の厚生労働省方式の検診は86.9%の採用率であり、ほぼ安定している。小児保健行政の3歳児聴覚検診は日本でほぼ定着していることが示された。

今年度新規に発見された感音難聴児は26例あり、発見率は0.003%とほぼ例年どおりであった。今年度は1歳6ヶ月児健診における聞こえの確認方法についても調査を行った。聞こえの確認方法は自治体によって多様であり、日耳鼻リーフレットの導入も導入済みまたは一部導入をあわせても40%と徐々に認知されつつあることが示唆されたが、さらに啓発活動の必要性も報告された。

4. 新生児聴覚スクリーニング後の精密聴力検査機関実態調査報告とリストの改定について

新生児聴覚スクリーニングにて両側PASS、または一側REFERであっても精密検査にて両側難聴であった症例が複数認められ、精密検査に際して小児難聴診断の難しさが浮き彫りになった。精密検査方法が施設によって異なり、担当者が難聴に精通していないこともある。こうした新生児聴覚スクリーニン

グに関する問題点をリストアップし、精密検査の精度や精密検査機関のあり方、今後のリスト改定について今後検討していくことが報告された。

5.1歳児、2歳児に関する予備調査報告について

1歳、2歳になってから難聴が発見された症例がそれぞれ371例、235例いたことが示され、新生児聴覚スクリーニングの更なる普及、きこえの確認方法を整備していく必要性がある。

6.「軽・中等度難聴児への補聴器購入費助成事業実態調査」報告について

H24年度中に軽・中等度難聴児への補聴器助成事業が開始された地域についての調査報告が行われた。県レベル、または市町村レベルで助成事業が行われている。また今年度に入ってから助成事業を開始した自治体が複数あることも報告された。

7.小児人工内耳適応基準の改定について

人工内耳実態調査結果などをもとに3年以上改定を検討されていた小児人工内耳適応基準が2014年版として公表された。適応年齢が1歳以上(8kg以上)となり、両耳装用についても言及した。新しい基準は海外の基準と遜色がないものの、今後医療の進歩に伴う新たな問題点が生じた場合はまた改定を検討していくことなどが報告された。

8.先天性風疹症候群(CRS)診療マニュアルについて

H25年の5、6月をピークに風疹が流行し、昨年だけで先天性風疹症候群(CRS)が31人出生した。耳鼻科を受診する機会は少なくなく、外来での診療、感染対策について周産期学会などと連携してマニュアルが作成され、日耳鼻のホームページに掲載されることが報告された。

9.閉会の辞：喜多村 健担当理事

難聴の早期診断が可能となるよう、今後も全国的なアンケート調査などを行い、1歳6カ月児健診や新生児聴覚スクリーニングの普及、充実を、今後さらに行政に求めていく必要性についての総括があった。

当日の資料については全国会議出席者がお持ちですので、詳しくはそれをご覧いただくようお願いいたします。



日耳鼻発第129号

平成26年3月10日

平成25年度 日本耳鼻咽喉科学会 学校保健全国代表者会議ならびに学校保健研修会報告

平成26年1月25日(土)15:00～19:00、1月26日(日)9:00～11:00(於：東海大学校友会館)
担当理事：中島 格、喜多村 健 委員長：宇高二良

標記会議が各地方部会から135名の参加者をもって開催された。冒頭の挨拶で日本耳鼻咽喉科学会 八木聰明理事長は今日の急激な社会変化の中で児童生徒の健全な発達成長をはかるために学校保健活動は重要な使命を担っており、今後とも活発な活動を継続させてゆく必要があると述べられた。ついで、来賓として日本医師会 道永麻里常任理事、日本学校保健会 雪下國雄専務理事、文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課 知念希和学校保健対策専門官からご挨拶を賜った。

1. 協議事項

「学校における耳鼻咽喉科救急疾患の対応と処置～学校職員のためのマニュアル作成の必要性～」をテーマとして開催された。これについては、事前に各都道府県地方部会学校保健委員長および小学校、中学校の養護教諭宛にアンケート調査を行い、その結果をもとに協議が行われた。

文科省のインクルーシブ教育の流れの中でさまざまな障害を持った児童生徒が普通学校で学ぶ時代となっていることや、学習指導要領の改定に伴って平成24年度から中学校保健体育で武道の必修化されたことなどで、学校現場において対応とすべき対象や対応方法の変化が生まれ、また全職員が対応する必要性が生じている。アンケート調査より、最も多い救急疾患は鼻出血(2.5%)であり、次いで咽頭痛、耳痛、咽頭異物などであった。また、一般診療所で対応できずに大学や総合病院に加療を依頼した経験がある学校は47%に認められた。疾病としては鼻骨骨折、鼻出血、咽頭異物、外傷性鼓膜穿孔などであった。武道必修化による診療経験では耳介血腫、鼻骨骨折(柔道) 鼓膜穿孔、剣道難聴(剣道) 耳介裂傷、音響外傷(弓道) などがあった。また、訴訟

や係争になった事例を経験した医師は5%と少なかったが、生徒同士の殴打による鼻部・耳部打撲、教師の体罰(平手打ち)による鼓膜穿孔などがあった。

養護教諭からは耳鼻咽喉科の救急疾患は比較的少ないが、その対応方法についてほとんど承知しておらず、耳鼻咽喉科学校医による研修やマニュアル作成を希望するものが96%に上った。

これらのことを受けた日耳鼻学校保健委員会委員が担当して、A4版13頁の冊子「学校における耳鼻咽喉科救急疾患の対応と処置」を作成した。学校において養護教諭また一般教諭向けに出来るだけ簡略にわかりやすく記載することを心がけた。特に、頭部打撲によって急激な聴力悪化を来す前庭水管拡大症や人工内耳、補聴器装用児への対応、ボタン型電池異物についてはコラムを設け、解説した。今後日本耳鼻咽喉科学会ならびに日本学校保健会のホームページに掲載予定であり、全国各地域において広く利用されることを期待している。

2. 研修会

(1)「学校医の法的地位と学校医が留意すべき事項～法律家の視点から～」という演題で関谷法律事務所弁護士の宗像 雄先生の講演があった。それによれば、学校医は学校という組織の一員であり、学校保健安全法の目的として「児童生徒等の職員の健康保持増進」と「児童生徒等の安全の確保」を担うことになっており、救急措置をのぞいて診療行為を行うことはその職務には含まれていない。一方、自院において当該児童生徒を診療する場合には診療行為を行うことになる。この場合、学校医と医師としての利益相反 conflict を来す可能性があり、慎重な対応が必要であると述べられた。

(2)「人工内耳装用児の教育の現状と課題」という演題で愛媛大学教育学部特別支援教育講座の高橋信雄先生により講演が行われた。その中で人工内耳装用児も学校教育を終了し就労を迎える世代も増えており、今一度乳幼児期における関わり、学校教育の在り方を見直しの必要性、今後の検討課題を提示された。学校教育においては、生活言語は獲得できても学習言語の習得には至っていない児童生徒が多数存在しており、インクルーシブ教育や思春期への取り組みの重要性について述べられた。さらに、教育機関や病院など機関間の連携が必ずしも十分とはいえない現状があり、今後は個々の機関の役割を生かした

体系性のある指導を目指した取り組みが欠かせないと説明された。最後に、現在あまり注目されていない軽中等度難聴児、一側性難聴児の聴覚補償の大切さについて強調された。

なお、会議の資料は出席された各地方部会の委員がお持ちになっています。日本耳鼻咽喉科学会総会の折に本会議の内容をまとめた「平成25年度 耳鼻咽喉科学校保健の動向」を発刊し、提供いたしますので、是非ご一読ください。また、平成24年度同様に日本耳鼻咽喉科学会ホームページに「動向」のアップも行う予定です。

//////////////////////////////

日耳鼻発第130号

平成26年3月10日

平成25年度 日本耳鼻咽喉科学会 医事問題委員会ワークショップおよび全国会議

平成26年1月25日(土) 16:00～20:00(於：東海大学校友会館)
担当理事：森山 寛、黒野祐一 委員長：鈴木賢二

テーマ 「事例に学ぶ医事紛争」

1. 平成25年度医事問題委員会報告 鈴木賢二委員長
- (1) 今年度に委員会を3回開催した。
 - (2) 第38回医事問題セミナー(平成25年6月22日(土)・23日(日)、担当：岡山県地方部会、会長：西崎和則、参加者146名)を開催した。
 - (3) 平成25年度医事問題委員会ワークショップおよび全国会議(平成26年1月25日、テーマ：事例に学ぶ医事紛争)を開催した。
 - (4) 「医事紛争とその問題点」第29巻(平成24年度医事問題委員会ワークショップ・全国会議、および第38回医事問題セミナーの内容を収録)を刊行した。

- (5) 勤務医師賠償責任保険、所得補償保険・長期障害所得補償保険の継続手続きを行った。勤務医師賠償責任保険の加入者数は若干減少しつつある。
- (6) 医賠責審査会と連絡を取り、医事紛争の合理的解決に務めた。
- (7) 厚生労働省補助事業「診療行為に関連した死亡事故の調査分析モデル事業」は、全国10モデル地区で行われ、平成22年からは日本医療安全調査機構に名称が変更され継続されている。一方、大学、基幹病院で開催される事故調査委員会から要請があれば、経済的協力も含めて積極的に参加することがこの機構から本学会に求められている。
- (8) 医療事故に関するアンケート調査のデータベース化を行った。

2. 医療事故に関するアンケート調査の結果報告 野中 学委員

前年度から紛争継続中の医療事故、平成24年度（平成24年10月～平成25年9月）に発生した紛争に至った医療事故、および紛争に至らなかった医療事故について集計と解析、検討を行った。前年度から継続中の医療事故は24件、期間中に紛争に至った事例は46件、紛争に至らなかった事例は22件、再紛争2件であり、期間中の医療事故件数（紛争に至った事例+紛争に至らなかった事例）は平成17年度（99件）をピークとして、最近は減少傾向にある。期間中の医療事故の内容（医療行為別の分類）としては、手術（30件：41.7%）が多く、次いで処置（18件：25%）、その他（10件：13.9%）、診断（4件：5.6%）の事例が多かった。インフォームドコンセント関連事例は平成15年度をピークに減少傾向にあり、本年度は2件であった。資料「医療事故に関するアンケート調査結果」は、出席した各地方部会委員、および地方部会長などに配布されている。

3. 事例報告・検討

領域ごとの事例報告・検討（①耳領域：奥村隆司委員、②鼻領域：村塚幸穂委員、③口腔・咽喉頭領域：沖久衛委員、④頭頸部腫瘍領域：鈴木賢二委員長）が行われた。報告、および事例検討の内容は「医事紛争とその問題点」第30巻（平成27年1月発刊予定）に掲載の予定である。



血漿分画製剤(生体組織接着剤) 薬価基準収載

ボルヒール[®]組織接着用

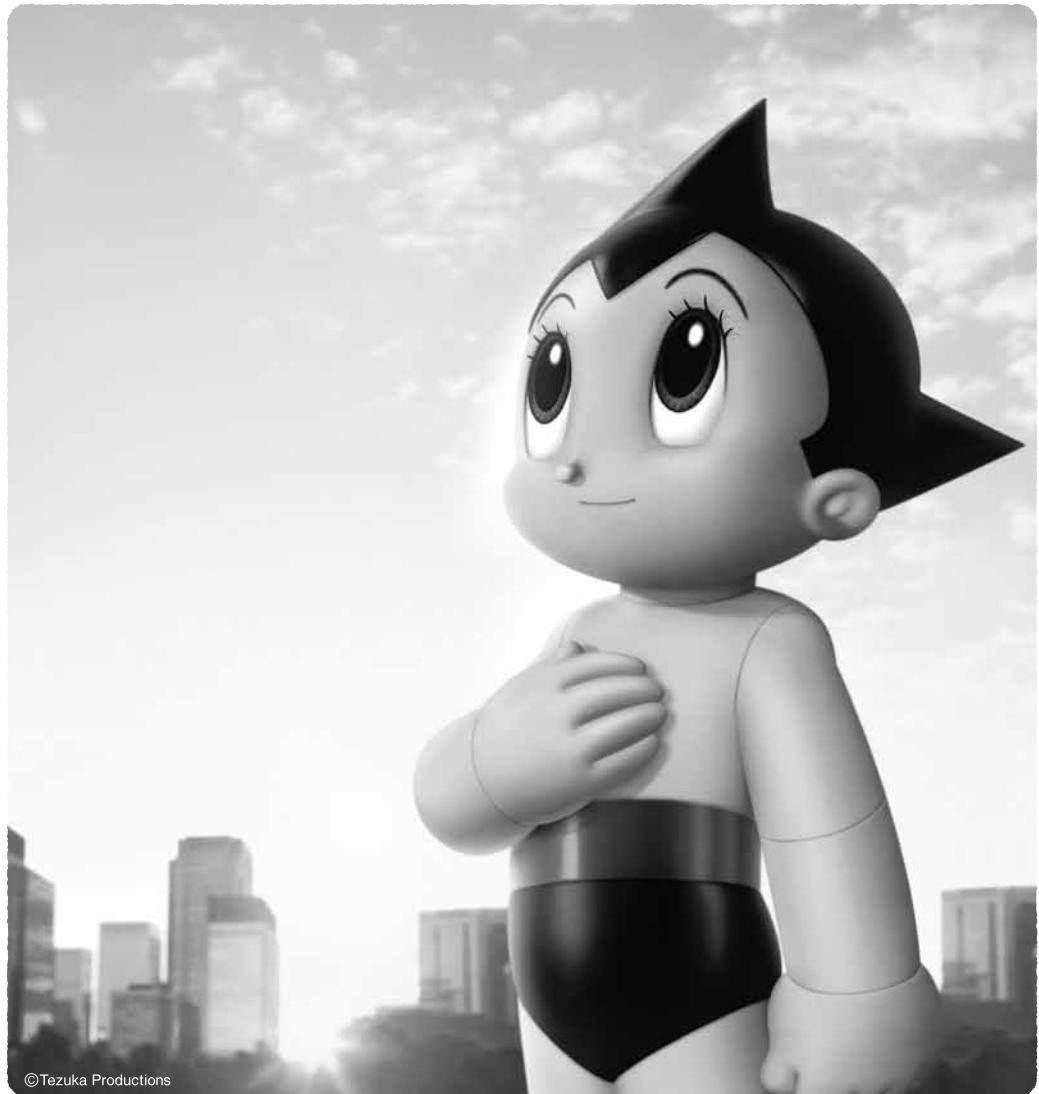
特定生物由来製品、処方せん医薬品
(注意—医師等の処方せんにより使用すること)

BOLHEAL[®]

■「効能・効果」「用法・用量」「禁忌を含む使用上の注意」等につきましては、製品添付文書をご参照ください。

販売 アステラス製薬株式会社
東京都板橋区蓮根3-17-1
〔資料請求先〕本社/東京都中央区日本橋本町2-5-1

一般財団法人
製造販売 化学及血清療法研究所
〔資料請求先〕営業管理部/熊本市北区大塙一丁目6番1号



©Tezuka Productions

処方せん医薬品：注意一医師等の処方せんにより使用すること
プロトンポンプ阻害剤 [薬価基準収載]
パリエット® 錠10mg
錠20mg
<ラベプラゾールナトリウム製剤> www.pariet.jp

- 効能・効果、用法・用量及び禁忌を含む使用上の注意等については添付文書をご参照ください。



製造販売元 エーザイ株式会社
東京都文京区小石川4-6-10

製品情報お問い合わせ先：エーザイ株式会社 お客様ホットライン
フリーダイヤル 0120-419-497 9~18時(土、日、祝日9~17時)

ロイコトリエン受容体拮抗剤

—気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤—

オノン[®]カプセル 112.5mg

ブランルカスト水和物カプセル

ONON[®]

薬価基準収載



●効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等、
詳細は製品添付文書をご参照ください。

資料請求先

ono

小野薬品工業株式会社

〒541-8564 大阪市中央区久太郎町1丁目8番2号



【禁忌(次の患者には投与しないこと)】
本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

【効能・効果】

成人: アレルギー性鼻炎、蕁麻疹、皮膚疾患に伴う瘙痒（湿疹・皮膚炎、痒疹、皮膚瘙痒症、尋常性乾癬、多形滲出性紅斑）

小児: アレルギー性鼻炎、蕁麻疹、皮膚疾患（湿疹・皮膚炎、皮膚瘙痒症）に伴う瘙痒

【用法・用量】

アレロックOD錠2.5・5、アレロック錠2.5・5

成人: 通常、成人には1回オロバタジン塩酸塩として5mgを朝及び就寝前の1日2回経口投与する。

なお、年齢、症状により適宜増減する。

小児: 通常、7歳以上の中には1回オロバタジン塩酸塩として5mgを朝及び就寝前の1日2回経口投与する。

【用法・用量に関する使用上の注意

【アレロックOD錠2.5・5】

本剤は口腔内で崩壊するが、口腔粘膜からは吸収されないため、唾液又は水で飲み込むこと。

アレロック顆粒0.5%

成人: 通常、成人には1回オロバタジン塩酸塩として5mg（顆粒剤として1g）を朝及び就寝前の1日2回経口投与する。

なお、年齢、症状により適宜増減する。

小児: 通常、7歳以上の中には1回オロバタジン塩酸塩として5mg（顆粒剤として1g）を朝及び就寝前の1日2回経口投与する。

通常、2歳以上7歳未満の中には1回オロバタジン塩酸塩として2.5mg（顆粒剤として0.5g）を朝及び就寝前の1日2回経口投与する。

【使用上の注意】

1. 慎重投与

(次の患者には慎重に投与すること)

1) 腎機能低下患者【高い血中濃度が持続するおそれがある。】

2) 高齢者

3) 肝機能障害のある患者【肝機能障害が悪化するおそれがある。】

2. 重要な基本的注意

1) 眠気を催すことがあるので、本剤投与中の患者には自動車の運転等危険を伴う機械の操作には従事させないよう十分注意すること。

2) 長期ステロイド療法を受けている患者で、本剤投与によりステロイド減量を図る場合には十分な管理下で徐々に行うこと。

3) 本剤を季節性の患者に投与する場合は、好発季節を考えて、その直前から投与を開始し、好発季節終了時まで続けることが望ましい。

4) 本剤の使用により効果が認められない場合には、漫然と長期にわたり投与しないように注意すること。

3. 副作用

(成人)【アレロックOD錠・アレロック錠(普通錠)・アレロック顆粒0.5%】

アレロック錠(普通錠)の承認時及び使用成績調査・特別調査(長期使用調査)において9,620例中、副作用及び臨床検査値異常の発現例は1,056例(発現率11.0%)で、1,402件であった。

主な副作用は眠気674件(7.0%)、ALT(GPT)上昇68件(0.7%)、倦怠感53件(0.6%)、AST(GOT)上昇46件(0.5%)、口渴36件(0.4%)等であった。

(再審査終了時)

〈小児〉【アレロックOD錠・アレロック錠(普通錠)】

アレロック錠(普通錠)の国内臨床試験において417例中、副作用及び臨床検査値異常の発現例は62例(発現率14.9%)で、78件であった。主な副作用は眠気22件(5.3%)、ALT(GPT)上昇18件(4.3%)、AST(GOT)上昇8件(1.9%)、白血球增多7件(1.7%)、γ-GTP上昇3件(0.7%)等であった。(承認時)

〈小児〉【アレロック顆粒0.5%】

アレロック錠(普通錠)及び顆粒の国内臨床試験において621例中、副作用及び臨床検査値異常の発現例は69例(発現率11.1%)で、87件であった。

主な副作用は眠気24件(3.9%)、ALT(GPT)上昇20件(3.2%)、AST(GOT)上昇9件(1.4%)、白血球增多7件(1.1%)等であった。(承認時)

1) 重大な副作用

劇症肝炎、肝機能障害、黄疸(頻度不明)・劇症肝炎、AST(GOT)、ALT(GPT)、γ-GTP、LDH、AI-Pの上昇等を伴う肝機能障害、黄疸があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

● その他の「使用上の注意」は製品添付文書をご参照ください。

製造販売元

〔資料請求先〕
協和発酵キリン株式会社

東京都千代田区大手町一丁目6番1号 〒100-8185
www.kksmile.com



アレルギー性疾患治療剤

〈薬価基準収載〉

**アレロック® OD錠2.5・5
錠2.5・5
顆粒 0.5%**

ALLELOCK OD Tablets・Tablets・Granules 0.5%
オロバタジン塩酸塩口腔内崩壊錠・オロバタジン塩酸塩顆粒

2013年8月作成 ®登録商標

Kyorin 



処方せん医薬品^{注)}

喘息治療配合剤

フルティフォーム[®]

50エアゾール 56 吸入用 125 エアゾール 56 吸入用

薬価基準収載



フルチカゾンプロピオン酸エステル／ホルモテロールフルマル酸塩水和物吸入剤
注)注意—医師等の処方せんにより使用すること

効能・効果、用法・用量、禁忌、原則禁忌を含む使用上の注意等については添付文書等をご参照下さい。

新しい喘息治療配合剤フルティフォームの
すべてがわかる医療従事者向けWebサイト
「フルティフォーム.jp」をご覧ください。

<http://www.flutiform.jp>

杏林製薬株式会社

東京都千代田区神田駿河台四丁目6番地
(資料請求先:くすり情報センター)

作成年月:2014.6



GlaxoSmithKline

生きる喜びを、もっと
Do more, feel better, live longer持続性選択H1受容体拮抗・アレルギー性疾患治療剤 [薬価基準収載]
处方せん医薬品(注意—医師等の処方せんにより使用すること)

ザイザル[®]錠5mg

Xyzal[®] Tablets 5mg レボセチリジン塩酸塩錠

定量噴霧式アレルギー性鼻炎治療剤

处方せん医薬品(注意—医師等の処方せんにより使用すること) [薬価基準収載]

アラミスト[®] 点鼻液27.5μg 56噴霧用

Allermist[®] 27.5μg 56 metered Nasal Spray
フルチカゾンフランカルボン酸
エステル点鼻液

「効能・効果」、「用法・用量」、「禁忌を含む使用上の注意」、「用法・用量に関する使用上の注意」等については、添付文書をご参照ください。

製造販売元(輸入)

グラクソ・スミスクライン株式会社

〒151-8566 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-6-15

グラクソ・スミスクラインの製品に関するお問い合わせ・資料請求先

TEL : 0120-561-007 (9:00~18:00/土日祝日および当社休業日を除く)

FAX : 0120-561-047 (24時間受付)

2013年1月作成

GRACEVIT®

先発ローテーション、 グレースビット®



【禁 忌】(次の患者には投与しないこと)

- 1.本剤の成分又は他のキノロン系抗菌薬に対し過敏症の既往歴のある患者
- 2.妊娠又は妊娠している可能性のある婦人(「妊娠・産婦・授乳婦等への投与」の項参照)
- 3.小児等(「小児等への投与」及び「その他の注意」の項参照)

効能・効果

(適応菌種) 本剤に感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、モラセラ(フランヘルメル)、カタリーリス、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、インフルエンザ菌、緑膿菌、レジオネラ・ニューモフィラ、ペプストレプトコッカス属、フレボテラ属、ポルフィロマノス属、フンバクテリウム属、トラコーマクラミジア(クラミジア・ラコマティス)、肺炎クラミジア(クラミジア・ニューモニク)、肺炎マイコプラズマ(マイコプラズマ・ニューモニク)。

(適応症) ○咽頭・喉頭炎、扁桃炎(扁桃周囲炎、扁桃周囲膿瘍を含む)、急性気管支炎、肺炎、慢性呼吸器病変の二次感染 ○膀胱炎、腎盂腎炎、尿道炎 ○子宮頸管炎 ○中耳炎、副鼻腔炎 ○歯周組織炎、歯冠周囲炎、顎炎

〔効能・効果に関連する使用上の注意〕

本剤は下痢、軟便が高頻度に認められているため、本剤の使用に際しては、リスクヒベネフィットを考慮すること(「副作用」の項参照)。

用法・用量

通常、成人に対してタブロキサシンとして1回50mg(錠1錠又は細粒0.5g)を1日2回又は1回100mg(錠2錠又は細粒1.0g)を1日1回経口投与する。なお、効果不十分と思われる症例には、シタフロキサシンとして1回100mg(錠2錠又は細粒1.0g)を1日2回経口投与ができる。

〔用法・用量に関連する使用上の注意〕

- 1.本剤の使用にあたっては、耐性菌の発現等を防ぐため、原則として感受性を確認し、疾病的治療上必要な最小限の期間の投与にとどめること。
- 2.腎機能が低下している患者では、本剤の血中濃度が上昇するため、投与量、投与間隔を調節すること(「薬物動態」の項参照)。

使用上の注意

1.慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)(1)腎機能障害のある患者[高い血中濃度の持続が認められている(「薬物動態」の項参照)]。(2)てんかん等の痙攣性疾患又はこれらの既往歴のある患者[類薬で痙攣を起こすとの報告がある]。(3)重症筋無力症の患者[類薬で症状を悪化させるとの報告がある]。(4)高齢者(「高齢者への投与」の項参照)。(2)相互作用・併用注意(併用に注意すること) アルミニウム又はマグネシウム含有の制酸薬等、カルシウム剤、鉄剤、フェニール酢酸系又はプロピオン酸系非ステロイド性消炎鎮痛薬(ケトプロフェン等)。(3)副作用 国内の臨床試験において、総症例1,220例中409例(33.5%)に副作用(臨床検査値異常変動を含む)が認められた。主な副作用は、下痢69例(5.7%)、軟便86例(7.0%)、頭痛26例(2.1%)、ALT(GPT)上昇72例(5.9%)、AST(GOT)上昇59例(4.8%)、好酸球数増加47例(3.9%)等であった。(用法・用量追加承認時) 使用成績調査(調査期間:2008年12月~2010年11月)において、

総症例3,331例中148例(4.4%)に副作用(臨床検査値異常変動を含む)が認められた。主な副作用は、下痢41例(1.2%)、軟便14例(0.4%)、ALT(GPT)上昇22例(0.7%)、AST(GOT)上昇16例(0.5%)、発疹12例(0.4%)等であった。(使用成績調査終了時)

(1)重大な副作用 1)ショック、アナフィラキシーがあらわれることがあるので、観察を十分に行い、血压低下、呼吸困難、皮疹、血管性浮腫等の異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

2)皮膚粘膜眼症候群(Stevens-Johnson症候群)(頻度不明注):皮膚粘膜眼症候群があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

3)急性腎不全(頻度不明注):急性腎不全があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

4)肝機能障害(0.1%未満):肝機能障害(ALT(GOT)上昇、ALT(GPT)上昇等)があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

5)偽膜性大腸炎(頻度不明注):偽膜性大腸炎があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

6)低血糖(0.1%未満):低血糖があらわれることがあり、低血糖性昏睡に至る例も報告されているので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。糖尿病患者、腎機能障害患者、高齢者であらわやすい。

(2)重大な副作用(類薬) 他のニューキノロン系抗菌薬で以下の重大な副作用が報告されているので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

1)中毒性表皮壊死融解症(Toxic Epidermal Necrolysis: TEN) 2)痙攣 3)QT延長、心室頻拍(Torsades de pointesを含む) 4)黄疸 5)間質性肺炎 6)横紋筋融解症 7)腱障害 8)無顆粒球症 9)汎血球減少症 10)血小板減少 11)溶血性貧血 12)錯覚、せん妄、幻覚などの精神症状 13)重症筋無力症の悪化

注)自発報告において認められている副作用のため頻度不明。

★その他詳細につきましては、製品添付文書をご参照ください。

広範囲経口抗菌製剤 処方せん医薬品※
グレースビット®
錠50mg・細粒10%

GRACEVIT® (一般名:シタフロキサシン水和物)
※注意一医師等の処方せんにより使用すること
薬価基準収載

Daiichi-Sankyo
第一三共株式会社
東京都中央区日本橋本町3-5-1

2014年5月作成

抗癌剤の製品ラインナップ[®]

日本化薬株式会社
東京都千代田区富士見一丁目11番2号

日本化薬医薬品情報センター
0120-505-282 (フリーダイヤル)

日本化薬医薬品情報
<http://mink.nipponkayaku.co.jp>

*注意：医師等の処方せんにより使用すること



抗悪性腫瘍剤 効葉・処方せん医薬品*
動注用アイエーコール 50mg・100mg
シスプラチン製剤

抗悪性腫瘍剤 効葉・処方せん医薬品*
ハイカムチブ[®] 注射用 1.1mg
ノギテカン塩酸塩製剤

抗悪性腫瘍剤 生物活性質 効葉・処方せん医薬品*
カルセド[®] 注射用 20mg・50mg
注射用カルセドン塗膜増量

抗悪性腫瘍剤 生物活性質 効葉・処方せん医薬品*
ビラリビン[®] 注射用 10mg・20mg
注射用ビラリビン塗膜

抗悪性腫瘍剤 効葉・処方せん医薬品*
ラステッドSカプセル 25mg・50mg
エタニペトキシド製剤

抗悪性腫瘍剤 効葉・処方せん医薬品*
ラステッド錠 100mg/5mL
エタニペトキシド製剤

抗悪性腫瘍剤 効葉・処方せん医薬品*
オンコビブ[®] 注射用 1mg
ビンクリスチジン塩酸塩製剤

抗悪性腫瘍剤 効葉・処方せん医薬品*
エワザール[®] 注射用 10mg
日本薬局方 注射用ビンクリスチジン硫酸塩

抗悪性腫瘍剤 効葉・処方せん医薬品*
コホリブ[®] 静注用 7.5mg
ベントスチブン注射剤



抗悪性腫瘍剤 効葉・処方せん医薬品*
ペプレオ[®] 注射用 5mg・10mg
日本薬局方 注射用ペプチドマシン塩酸塩

抗悪性腫瘍剤 効葉・処方せん医薬品*
オダイブ[®] 錠 125mg
フルタミド製剤



抗悪性腫瘍剤 効葉・処方せん医薬品*
スタラシド[®] カプセル 50・100
Starostatin Caps. シタラシビン オクホスアート水和物製剤

抗悪性腫瘍剤 効葉・処方せん医薬品*
ヘスター[®] カプセル 10mg・30mg
パクリタキセル製剤

抗悪性腫瘍剤 効葉・処方せん医薬品*
パクリタキセル 注 30mg/5mL
100mg/16.7mL「NK」
パクリタキセル製剤

抗悪性腫瘍剤 効葉・処方せん医薬品*
カルボプラチブ[®] 点滴静注液 50mg・150mg・450mg「NK」
日本薬局方 カルボプラチブ注射液

代謝活性抗悪性腫瘍剤 効葉・処方せん医薬品*
ゲムシタビン[®] 点滴静注用 200mg・1g「NK」
点滴静注用ゲムシタビン塗膜

その他の生物学的製剤、抗悪性腫瘍剤 生物由来製品、効葉・処方せん医薬品*
イノフラー[®] 膀胱注入用 80mg・40mg
乾燥BCG膀胱内用(日本株)「生物学的製剤標準」

抗悪性腫瘍剤 効葉・処方せん医薬品*
イリノテカン塩酸塩点滴静注液 40mg「NK」
イリノテカン塩酸塩水と物滴静注液 100mg「NK」

抗悪性腫瘍剤 生物活性質製剤 効葉・処方せん医薬品*
エビルビシブ[®] 塩酸塩 注射用 10mg・50mg「NK」
注射用エビルビシブ塗膜

抗悪性腫瘍剤 生物活性質製剤 効葉・処方せん医薬品*
エビルビシブ[®] 塩酸塩 注射液 50mg/25mL「NK」
エビルビシブ塩酸塩注射液

抗悪性腫瘍剤 効葉・処方せん医薬品*
ドキソリビン[®] 塩酸塩 注射用 10mg「NK」
日本薬局方 注射用ドキソリビン塩酸塩

ビンカルタロビド[®] 抗悪性腫瘍剤 効葉・処方せん医薬品*
ロゼウス[®] 静注液 10mg・40mg
ビンカルタロビド塗膜

前立腺癌治療剤 効葉・処方せん医薬品*
ビカルタミド[®] 錠 80mg「NK」
ビカルタミド錠

アロマターゼ阻害剤 / 前駆後乳癌治療剤 効葉・処方せん医薬品*
エキセメスタン[®] 錠 25mg「NK」
エキセメスタン錠

アロマターゼ阻害剤 / 前駆後乳癌治療剤 効葉・処方せん医薬品*
アナストロゾール[®] 錠 1mg「NK」
アナストロゾール錠

前立腺癌治療剤 効葉・処方せん医薬品*
ピアセチル[®] カプセル 156.7mg
ピアセチルカプセル

代謝活性剤 効葉・処方せん医薬品*
エヌケーエスワブ[®] 配合カプセルT20-T25
テガリール・ザメラリル・オテラリル・カジリム配合カプセル剤
NKS-1 combination capsule T20-T25

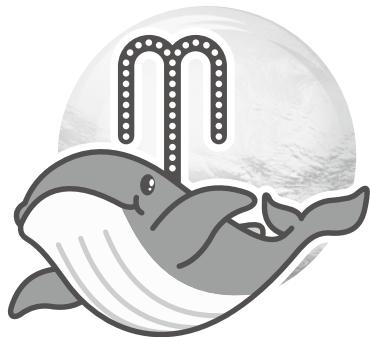
NK
Speciality, Biosimilar & Generic
plus IVR

※警告、禁忌、効能・効果、用法・用量、使用上の注意などは、製品添付文書をご参照ください。

薬価基準収載

明日をもっとすこやかに

meiji



経口用セフェム系抗生物質製剤

処方せん医薬品^(注)

日本薬局方 セフジトレン ピボキシル錠

メイアクトMS®錠100mg

MEIACT MS° TABLETS 100mg

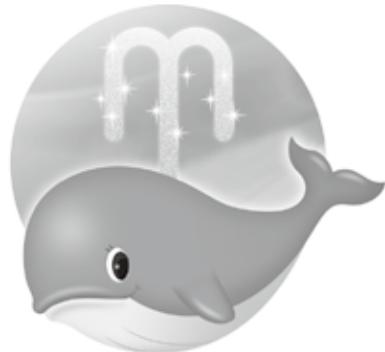
経口用セフェム系抗生物質製剤

処方せん医薬品^(注)

日本薬局方 セフジトレン ピボキシル細粒

メイアクトMS®小児用細粒10%

MEIACT MS° FINE GRANULES 10%



経口用カルバペネム系抗生物質製剤

処方せん医薬品^(注)

テビペネム ピボキシル細粒

オラペネム®小児用細粒10%

ORAPENEM FINE GRANULES 10% FOR PEDIATRIC



注)注意—医師等の処方せんにより使用すること

※「効能・効果」、「用法・用量」、「効能・効果に関する使用上の注意」、「用法・用量に関する使用上の注意」、「禁忌・原則禁忌を含む使用上の注意」等、詳細は製品添付文書をご参照ください。

製造販売元

Meiji Seika ファルマ株式会社

東京都中央区京橋 2-4-16

<http://www.meiji-seika-pharma.co.jp/>

〈資料請求先〉

Meiji Seika ファルマ株式会社 くすり相談室

〒104-8002 東京都中央区京橋 2-4-16

電話(0120)093-396、(03)3273-3539

作成：2012.8

発行日 平成 26 年 8 月 1 日
発行所 日本耳鼻咽喉科学会大阪府地方部会
〒565-0871 大阪府吹田市山田丘2番2号
大阪大学医学部耳鼻咽喉科・
頭頸部外科学教室内
電話 06-6879-3958
発行人 竹中 洋
編集委員長 小川 真
編集委員 岩井 大, 小西一夫, 寺尾恭一,
李 吾哲